

仙台市文化財調査報告書第 428 集

仙台平野の遺跡群 24

平成 25 年度個人住宅他
国庫補助対象事業に伴う発掘調査報告書

大野田官衙遺跡第 13～15 次、六反田遺跡第 10 次
元袋遺跡第 7・8 次、大野田遺跡第 4 次、王ノ壇遺跡第 6 次

2014 年 3 月

仙台市教育委員会

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日頃からご理解、ご協力を賜り、感謝申し上げます。
仙台市内には現在約760箇所の遺跡が確認されております。このような埋蔵文化財は地域の歴史を伝える将来へ守るべき大切な財産です。

平成23年3月11日の東日本大震災により、市内の各所はもとより、東北地方の太平洋沿岸部で多くの被害が発生しました。震災後、3年を経て、個人住宅等の建築増加により、平成25年度の発掘調査の件数は、震災以前を上回る状況が続いております。仙台市教育委員会といたしましては、復旧・復興事業との調整を図りながら、埋蔵文化財の保護に日々務めているところです。

本報告書には、個人住宅建築等に先立って平成25年度に発掘調査を実施した、大野田官衙遺跡、六反田遺跡、大野田遺跡、王ノ壇遺跡の調査結果を収録しています。

先人たちの遺した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ未来へと継承していくことは、現代に生きる私たちには大切な仕事であると思います。地域が育んだ文化を語る上で、歴史や文化資源がその根底を成しているからです。つきましては、本報告書が、学術研究のみならず学校教育や生涯学習などの文化活動に寄与し、皆様の埋蔵文化財へのより深い関心とご理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査や報告書の作成に際して、ご協力いただきました多くの方々へ心より深く感謝申し上げます。

平成26年3月

仙台市教育委員会
教育長 上 田 昌 孝

例 言

1. 本書は、平成25年度国庫補助事業による個人専用住宅他補助対象事業に伴う「仙台平野の遺跡群」の発掘調査報告書であり、大野田官衙遺跡第13～15次、六反田遺跡第10次、元袋遺跡第7・8次、大野田遺跡第4次、王ノ壇遺跡第6次の各発掘調査報告書を合本にしたものである。

本書の内容は、すでに公開されている遺跡見学会資料や、各種の発表会資料に優先する。

2. 本書の本文執筆・挿図・表・写真図版の作成等については以下のように分担し、編集は平岡亮輔が行った。

第1章、第2章第3節・第4節、総括 — 平岡亮輔

第2章第1節・第2節 — 小泉博明

第2章第5節 — 黒田智章

遺物の基礎整理～実測図作成 — 佐藤洋

遺物図・遺構図デジタルトレース — 黒田智章

調査区位置図・設定図デジタルトレース — 千葉靖彦 遺物観察表・遺構註記表作成 — 小泉博明

遺物写真撮影・図版作成 — 佐藤高陽、千葉悟 遺構写真図版作成 — 早坂純一

3. 本書に係る出土遺物、実測図、写真などの資料は仙台市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 文中および図中の方位は概ね北を示している。
2. 図中の標高を測定した基準点のデータは平成23年3月11日の東日本大震災以前に測定したものをそのまま使用している。
3. 遺構の略称は以下の通りで、遺構番号は各調査別の通し№である。
SB：掘立柱建物跡 SD：溝跡 SE：井戸跡 SI：堅穴住居跡 SK：土坑 SX：性格不明遺構
P：ピット
4. 遺物の略称は以下のとおりである。
A：縄文土器 B：弥生土器 C：土師器（非ロクロ調整） D：土師器（ロクロ調整）・赤焼土器
E：須恵器 F：丸瓦 G：平瓦 H：その他の瓦 I：陶器 J：磁器 K：石器・石製品
L：木製品 N：金属製品 P：土製品
5. 土色については、「新版標準土色帳」（小山・竹原1999）を使用した。
6. 遺物実測図中の網点は黒色処理を示している。
7. 遺物観察表の（ ）がついた数値は図上復元した推定値である。
8. 本文中の「灰白色火山灰」（庄子・山田1980）はこれまでの仙台市域の調査報告や東北地方中北部の研究から、「十和田a火山灰（To・a）」と考えられている。降下年代は西暦915年と推定されている。

庄子貞夫・山田一郎1980「宮城県北部に分布する灰白色火山灰について」『多賀城跡・昭和54年度発掘調査概報』宮城県多賀城跡調査研究所

仙台市教育委員会2000『沼向遺跡 第1～3次発掘調査』仙台市文化財調査報告書第241集

小口雅史2003「古代北東北の広域テフラをめぐる諸問題—十和田aと白頭山（長白頭）を中心に」『日本律令制の展開』吉川弘文館

目 次

第1章 調査計画と実績	1
I 調査体制	
II 調査計画	
III 調査実績	
第2章 太白区内の調査	3
第1節 大野田官衙遺跡	3
I 遺跡の概要	3
II 第13次調査	4
1. 調査要項	3. 基本層序
2. 調査に至る経緯と調査方法	4. 発見遺構と出土遺物
III 第14次調査	5
1. 調査要項	3. 基本層序
2. 調査に至る経緯と調査方法	4. 発見遺構と出土遺物
IV 第15次調査	6
1. 調査要項	3. 基本層序
2. 調査に至る経緯と調査方法	4. 発見遺構と出土遺物
第2節 六反田遺跡	9
I 遺跡の概要	9
II 第10次調査	9
1. 調査要項	3. 基本層序
2. 調査に至る経緯と調査方法	4. 発見遺構と出土遺物
第3節 元袋遺跡	17
I 遺跡の概要	17
II 第7次調査	17
1. 調査要項	3. 基本層序
2. 調査に至る経緯と調査方法	4. 発見遺構と出土遺物
III 第8次調査	21
1. 調査要項	3. 基本層序
2. 調査に至る経緯と調査方法	4. 発見遺構と出土遺物
第4節 大野田遺跡	26
I 遺跡の概要	26
II 第4次調査	26
1. 調査要項	3. 基本層序
2. 調査に至る経緯と調査方法	4. 発見遺構と出土遺物
第5節 王ノ壇遺跡	32
I 遺跡の概要	32
II 第7次調査	32
1. 調査要項	3. 基本層序
2. 調査に至る経緯と調査方法	4. 発見遺構と出土遺物
3. 基本層序	5. まとめ

2 調査に至る経緯と調査方法 4. 発見遺構と出土遺物

第6節 郡山遺跡	36
総括	00

挿図目次

第1図	大野田官街遺跡と周辺の遺跡	3
第2図	大野田官街遺跡全体図	4
第3図	第13次・14次調査区設定図	5
第4図	第15次調査区設定図	6
第5図	第15次調査区平面図・SK1断面図	7
第6図	六反田遺跡第10次・元袋遺跡第7次・8次調査区位置図、六反田遺跡第10次調査区設定図	9
第7図	第10次調査区平面図・SK1断面図	10
第8図	第10次調査出土遺物	12
第9図	第7次調査区設定図・北壁断面図	17
第10図	第7次調査区平面図・SI1断面図	18
第11図	第7次調査出土遺物	19
第12図	第8次調査区設定図	21
第13図	第8次調査区平面図・SI1断面図	22
第14図	第8次調査出土遺物	23
第15図	第4次調査区位置図・設定図	26
第16図	第4次調査区平面・断面図(1)	27
第17図	第4次調査区平面図(2)	28
第18図	第4次調査出土遺物	29
第19図	第7次調査区位置図・設定図	32
第20図	第7次調査区平面・断面図	33
第21図	郡山遺跡調査区位置図	36

挿表目次

表1	個人専用住宅に伴う発掘調査一覧	2
----	-----------------	---

写真図版目次

写真図版1	第13～15次調査	8
写真図版2	第10次調査	15
写真図版3	第10次調査出土遺物	16

写真図版 4	第 7 次調査 (1).....	20
写真図版 5	第 7 次調査 (2).....	21
写真図版 6	第 7 次調査出土遺物.....	21
写真図版 7	第 8 次調査.....	25
写真図版 8	第 8 次調査出土遺物.....	21
写真図版 9	第 4 次調査 (1).....	30
写真図版 10	第 4 次調査 (2).....	31
写真図版 11	第 4 次調査出土遺物.....	35
写真図版 12	第 7 次調査.....	21

第1章 調査計画と実績

I. 調査体制

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 仙台市教育局生涯学習部文化財課

平成24年度

【文化財課】 課長 吉岡恭平 主幹 佐藤甲二

【調査調整係】 係長 斎野裕彦 主査 佐藤洋 平間亮輔 主任 村上とよ子

主事 水野一夫 小泉博明 鈴木隆 関根章義 及川謙作

文化財教諭 佐藤高陽 伊藤翔太 千葉悟 橋本勇人

専門員 結城慎一

【整備活用係】 係長 長島栄一 主任 斎藤克己 主事 大久保弥生

文化財教諭 石山智之 鈴木健弘

専門員 木村浩二

平成25年度

課長 吉岡恭平

【調査調整係】 係長 斎野裕彦 主査 平間亮輔 主任 村上とよ子

主事 小泉博明 鈴木隆 黒田智章

文化財教諭 佐藤高陽 早坂純一 千葉悟 千葉靖彦

専門員 篠原信彦 佐藤洋

【整備活用係】 係長 長島栄一 主任 斎藤克己 主事 及川謙作

文化財教諭 石山智之 伊藤翔太 橋本勇人

専門員 木村浩二

II. 調査計画

主に個人専用住宅の建築に伴う発掘調査費用の補助を目的とし、「個人専用住宅補助事業費」として、総額7,686千円（このうち補助金額3,796千円）の予算で24件の調査を計画した。

III. 調査実績

平成24年度第4四半期から平成25年度第4四半期にかけて（平成25年2月19日～平成26年1月31日まで）実施された調査は表1のとおりで計31件である。このうち本書に収録したのは平成25年11月19日までに終了したもので、24年度分を含めて8件である。

平成24年度 個人専用住宅に伴う発掘調査一覧(平成25年2月19日～3月31日) 調査面積146.6㎡

調査№	道路名	所在地	対象面積	調査面積	調査期間	遺構・遺物	届出等№	報告書
H24-92	六反田道跡	太白区大野田	79.8	28.3	2月19日～22日	土坑、遺物多	H24-122-355	10次
H24-98	元袋道跡	太白区大野田	47.2	16.3	3月4日～26日	小溝・土坑	H24-122-367	—
H24-99	元袋道跡	太白区大野田	69.7	21.8	3月4日～26日	河川跡	H24-122-368	—
H24-100	元袋道跡	太白区大野田	64.8	28.8	3月4日～26日	竪穴住居跡、遺物多	H24-122-369	7次
H24-101	元袋道跡	太白区大野田	67.2	13.6	3月4日～26日	竪穴住居跡、遺物多	H24-122-370	8次
H24-103	元袋道跡	太白区大野田	74.0	19.8	3月4日～26日	河川跡	H24-122-387	—
H24-87	元袋道跡	太白区大野田	53.0	18.0	3月4日～7日	小溝・ピット	H24-122-371	—

平成25年度 個人専用住宅に伴う発掘調査一覧(平成25年4月1日～平成26年1月31日) 調査面積558.4㎡

調査№	道路名	所在地	対象面積	調査面積	調査期間	遺構・遺物	届出等№	報告書
H25-3	滝ノ巣道跡	宮城野区岩切	63.8	20.0	4月10日～11日	遺物少	H24-122-435	—
H25-5	南小泉道跡	若林区南小泉	70.8	14.7	4月14日～17日	土坑	H24-122-467	—
H25-9	南小泉道跡	若林区遠見塚	59.0	17.6	5月8日～13日	SX1基	H25-123-26	—
H25-15	郡山道跡	太白区郡山三丁目	78.7	39.0	5月27日～6月5日	北辺大溝など	H25-123-3	241次
H25-18	中田南道跡	太白区中田	65.0	22.9	6月10日～11日	遺構無	H25-123-27	—
H25-20	大野田官街道跡	太白区大野田	76.0	17.6	6月17日	遺構無	H25-123-90	13次
H25-21	郡山道跡	太白区郡山五丁目	74.5	26.4	6月17日～18日	II期の掘立	H25-123-45	242次
H25-22	王ノ塚道跡	太白区大野田	116.1	12.3	6月24日	遺構無	H25-123-40	—
H25-23	大野田道跡	太白区大野田	111.2	20.4	7月2日	遺構無	H25-123-43	—
H25-28	大野田官街道跡	太白区大野田	68.7	16.0	7月16日	遺構無	H25-123-115	14次
H25-27	大野田道跡	太白区大野田	130.5	26.0	7月17日～30日	官街東辺の溝跡	H25-123-109	4次
H25-32	大野田古墳群	太白区大野田	60.0	12.0	7月29日	小溝群	H25-123-83	—
H25-26	王ノ塚道跡	太白区大野田	184.3	39.3	8月2日～9日	溝跡	H25-123-75	6次
H25-36	伊古田B道跡	太白区大野田	63.4	16.0	8月26日	遺構・遺物無	H25-123-177	—
H25-39	大野田官街道跡	太白区大野田	148.1	24.0	9月2日～5日	SK、ピット	H25-123-158	15次
H25-40	一塚古墳	太白区麓野	75.4	7.6	9月5日	遺構無、遺物僅少	H25-123-207	—
H25-43	割ノ口道跡	宮城野区岩切	161.4	32.5	9月24日～25日	堀跡	H25-123-182	—
H25-46	郡山道跡	太白区郡山三丁目	48.8	15.0	10月7日～9日	小溝群	H25-123-251	244次
H25-47	西邸丸館跡	太白区西邸丸	52.0	15.0	10月8日	遺構・遺物無	H25-123-260	—
H25-54	新組道跡	太白区茂庭	61.3	16.5	11月5日	遺構・遺物無	H25-123-289	—
H25-59	西上野原A道跡	泉区福岡	109.4	14.0	11月19日	遺構・遺物無	H25-123-298	—
H25-58	六反田道跡	太白区大野田	95.1	14.0	11月27日～12月6日	竪穴住居跡、溝跡	H25-123-253	次年度
H25-62	大野田古墳群	太白区大野田	105.6	24.0	12月3日～5日	竪穴住居跡	H25-123-315	次年度
H25-68	柳生台畑道跡	太白区柳生	74.5	20.8	1月8日	溝跡	H25-123-254	—
H25-71	六反田道跡	太白区大野田	66.9	28.0	1月14日	遺構無	H25-123-337	—
H25-70	大野田古墳群	太白区大野田	100.7	30.8	1月8日	溝跡	H25-123-281	—
H25-73	大野田官街道跡	太白区大野田	79.1	16.0	1月27日	土坑	H25-123-354	—

表1 個人専用住宅に伴う発掘調査一覧

第2章 太白区内の調査

第1節 大野田官衙遺跡

I. 遺跡の概要

大野田官衙遺跡は、宮城県仙台市太白区大野田に所在する。JR仙台駅の南約5.2kmに位置し、名取川と築川に挟まれた自然堤防上に立地する。遺跡の範囲は、東西約0.19km、南北約0.26kmで、標高は約10～12mである。

周辺には元袋遺跡、袋前遺跡、六反田遺跡、大野田古墳群、王ノ壇遺跡、大野田遺跡などが隣接して分布し、平成6年度以降、富沢駅周辺土地区画整理事業などに伴い、継続して発掘調査が行われている。これまでの調査では、縄文時代、古墳時代、古代の集落跡、中世の屋敷地などが確認され、さらに古墳時代の石棺墓や木棺墓、円墳、平安時代の水田跡も調査されている。

大野田官衙遺跡は、富沢駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査の中で発見された官衙遺跡である。平成21年度には、官衙関連遺構が確認されている範囲を「大野田官衙遺跡」として登録されている。これまでの調査で、6棟の大型掘立柱建物跡とそれを方形に囲む溝跡が確認されている。発見された6棟の掘立柱建物跡は、概ね真北を基準とする南北棟で、規則的に配置されている。東西列の建物は、構造や規模を同じくする掘立柱建物跡が向かい合って配置される。その最も北側の建物の間には東西中軸線上に、さらに建物が配置されている。また、溝跡によって方形に区画された内部には、東西方向の溝跡が確認されている。区画内部をさらに南北に隔てる施設の可能性がある。

これら大野田官衙関連遺構からの遺物の出土量は比較的少ない。年代を把握できる遺物の年代は



番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	大野田官衙遺跡	官衙跡	自然堤防	古代
2	六反田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～古代、近世
3	元袋遺跡	集落跡、水田跡	自然堤防	弥生、古代～近世
4	大野田遺跡	祭祀、集落跡	自然堤防	縄文～古代
5	王ノ壇遺跡	集落跡、屋敷跡	自然堤防	縄文～中世
6	高塚塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳中期
7	大野田古墳群	円墳	自然堤防	古墳
8	春日古墳	円墳	自然堤防	古墳
9	伊古田B遺跡	集落跡	自然堤防	縄文、古墳～古代
10	伊古田B遺跡	集落跡、水田跡	自然堤防	古墳～古代
11	圓屋敷遺跡	集落跡、屋敷跡	自然堤防	古代、中世
12	下ノ内遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～奈良
13	下ノ内遺跡	集落跡、水田跡	自然堤防	縄文～中世
14	袋東遺跡	散布地	自然堤防	古墳～古代
15	山口遺跡	集落跡、水田跡	自然堤防、後背湿地	縄文～中世
16	富沢遺跡	窪地、水田跡	後背湿地	後期旧石器～近世
17	泉崎浦遺跡	集落跡、水田跡	自然堤防、後背湿地	縄文～古墳、平安、近世
18	富沢遺跡	城跡跡	自然堤防	中世
19	圓屋敷前遺跡	集落跡	自然堤防	平安
20	三尊塚遺跡	集落跡	丘陵	縄文、平安

第1図 大野田官衙遺跡と周辺の遺跡

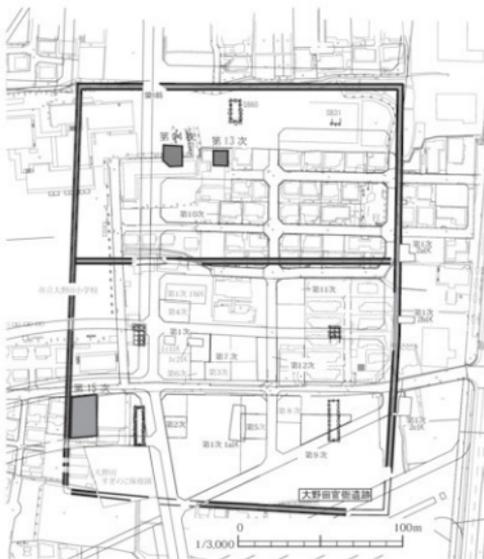
掘立柱建物跡の柱抜き取り穴からの出土遺物が、8世紀第2四半期であることから、この頃までに廃絶した遺構群であると考えられている。

遺跡の位置関係や建物の基準が真北で共通すること、機能時期などから、郡山遺跡Ⅱ期官街との密接な関係が推定され、陸奥国府の機能の一部を担う可能性が推測されている。一方、大野田官街遺跡の具体的な性格や周辺に分布する該期の遺跡との関わりなど、検討を要する課題も多い。

Ⅱ. 第13次調査

1. 調査要項

遺跡名	大野田官街遺跡 (宮城県遺跡登録番号 01566)
調査地点	仙台市太白区大野田字袋前 30-26 (富沢駅周辺土地区画整理事業 7B-8L)
調査期間	平成25年6月17日
調査対象面積	建築面積 231.0㎡
調査面積	17.6㎡
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係
担当職員	主事 小泉博明 文化財教諭 早坂純一



第2図 大野田官街遺跡全体図

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は申請者より平成25年5月30日付で提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出」に対して、文化財保護法第93条発掘届 (H25 教生文第123-90号で回答) に基づき実施した。調査は平成25年6月17日に着手した。申請者側が表示した建築範囲内に東西4.4m、南北4.0mの調査区を設定し、重機を用いて、盛土および水田耕作土である基本層Ⅰ層を掘削した。基本層Ⅳ層上面で行った遺構検出作業では、遺構が確認できなかったことから、さらに掘削を行い、基本層Ⅴ層上面で再度、遺構検出作業を行った。しかし、基本層Ⅴ層上面でも遺構は検出されなかった。調査では、必要に応じて、平面図 (S=1/40)、調査区北部壁面断面略図 (S=1/20) を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。調査区の埋め戻しを含む今回の調査は、同日中に終了した。

3. 基本層序

富沢駅周辺土地地区画整理事業に関係する遺跡の調査は、平成6年度以降、事業地内の7遺跡で継続的に行われている。その中で、遺存状況が良好な地点の基本層序を検討し、土地地区画整理事業に関わる遺跡の調査では、共通した基本層序が用いられてきた。今回、報告対象となる大野田官街遺跡3地点の基本層についても、富沢駅周辺土地地区画整理事業に伴う発掘調査で用いられた層位に対応させている。なお、いずれの調査地点でも後世の削平の影響で、基本層Ⅱ層およびⅢ層は残存していない。

I層：宅地化以前の水田、畑耕作土である。均質なシルトで、層下面に酸化鉄の集積が認められる地点もある。
 IV層：黒褐色もしくは暗褐色を呈する粘土質シルトである。基本層V層を含み、灰白色火山灰降下以前の畑耕作土およびその母材となった土壌と考えられている。地点により2層に分層される。
 V層：にぶい黄褐色もしくは黄褐色を呈するシルト、粘土質シルトである。本層上面で古墳時代から10世紀初頭までの遺構が検出される。

4. 発見遺構と出土遺物

今回の調査では、遺構は検出されなかった。また、遺物も出土していない。

5. まとめ

今回の調査地点は、大野田官街遺跡の中央部北寄りに位置する。今回の調査では、遺構、遺物ともに発見されなかった。

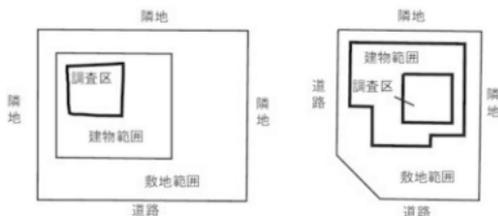
Ⅲ. 第14次調査

1. 調査要項

遺跡名	大野田遺跡(宮城県遺跡登録番号01566)
調査地点	仙台市太白区大野田字袋前27-2、27-4、六反田10-5、水路・堤の各一部(仙台市富沢駅周辺土地地区画整理事業7B-5L)
調査期間	平成25年7月16日
調査対象面積	68.7㎡
調査面積	16.0㎡
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係
担当職員	主事 黒田智章 文化財教諭 佐藤高陽

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は申請者より平成25年6月20日付で提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出」に対して、文化財保護法第93条発掘届(H25教生文第123-115号で回答)に基づき実施した。調査は平成25年7



第3図 第13次・14次調査区設定図(1/400)

月16日に着手した。申請者側が設定した建築範囲に調査区を設定し、重機により盛土を掘削した。まず4.0×4.0mの範囲に設定した調査区を地表面から1.0mの深さまで掘削した。この段階で、掘削が盛土内であったことから、当初、設定した掘削範囲の壁際に幅1.0mの段を設け、中央に2.0×2.0mの範囲をさらに1.0mの深度で掘削したところ、基本層Ⅳ層を確認した。この基本層Ⅳ層上面で遺構検出作業を行ったが、遺構および遺物は発見されなかった。盛土崩落による危険性を考慮し、また、掘削廃土の置き場の都合から、さらに下層の調査は行わなかった。調査では、必要に応じて、平面図（S=1/40）、調査区北壁柱状略図（S=1/20）を複製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。調査終了後、重機により締め固めを行いながら埋め戻しを行った。

3. 基本層序

第13次調査を参照。

4. 発見遺構と出土遺物

今回の調査では、遺構は検出されなかった。また、遺物も出土していない。

5. まとめ

今回の調査地点は、大野田官街遺跡の北西部に位置する。今回の調査地点の周辺で行われた調査事例をみると、平成17年度に行われた六反田遺跡2B区で古代の区画溝が検出されている以外は、官街に関連すると推定される遺構は確認されていない。今回の調査では、調査区が狭小なことや安全面を考慮する必要性などから、通常、遺構検出面となっている基本層Ⅴ層まで掘削が及ばず、遺構および遺物は確認されなかった。

IV. 第15次調査

1. 調査要項

遺跡名	大野田官街遺跡（宮城県遺跡登録番号01566）
調査地点	仙台市太白区富沢駅周辺土地区画整理事業地内25B-8L
調査期間	平成25年9月2日～9月5日
調査対象面積	建築面積148.1㎡
調査面積	24.0㎡
調査原因	個人住宅建築工事



第4図 第15次調査区設定図
(1/400)

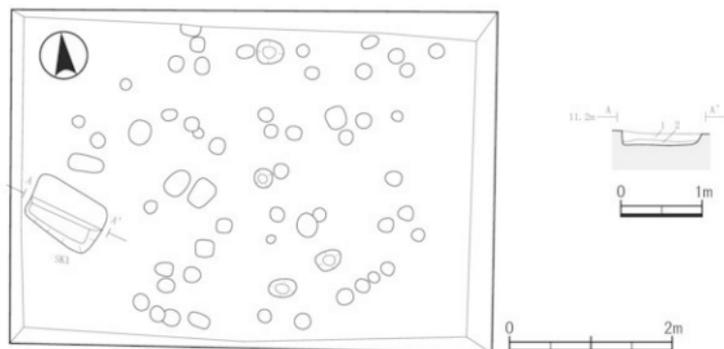
調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係

担当職員 主事 黒田智章 文化財教諭 佐藤高陽

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は申請者より平成25年7月12日付で提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出」に対して、文化財保護法第93条発掘届（H25教生文第123-153号で回答）に基づき実施した。調査は平成25年9月2日に着手した。申請者側が表示した建築範囲に、4.0×6.0mの調査区を設定し、重機により盛土を掘削した。盛土下から基本層Ⅳ層を確認したが、グライ化が著しく、遺構を確認することが困難であった。そのため、さらに重機による掘削を行い、基本層Ⅴ層上面で遺構検出作業を行ったところ、土坑やピット等の遺構が検出された。調査では、必要に応じて、平面図（S=1/40）、調査区北壁断面柱状模式図（S=1/20）を複製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。調査終了後、重機により締め固めを行いながら埋め戻しを行った。



第5図 第15次調査区平面図、SK1断面図

3. 基本層序

第13次調査を参照。

4. 発見遺構と出土遺物

今回の調査では、V層上面で土坑1基、ピット59基を検出した。

(1) 土坑

SK1 土坑

調査区西部で検出した土坑である。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸約1.0m、短軸約0.6mで、深さ約0.2mである。断面形は逆台形を呈する。堆積土は2層に細別され、黒褐色および暗褐色の粘土質シルトである。このうち、土坑底面直上に堆積した2層は非常に多くの炭化物を含む。炭化物は、草本類を母材とするものとみられる。また、焼土も粒状に少量含まれるが、土坑の底面には赤変などの被熱による変化は確認できなかった。

遺物は出土していない。

(2) ピット

調査区全域に分布し、59基を検出した。平面形は円形もしくは楕円形を呈し、いずれも小規模である。柱痕跡が確認できたものはない。確認した堆積土は単層である。黒褐色の粘土質シルトで、炭化物を粒状にごく少量含む。遺物は出土していない。

(3) 遺構外出土遺物

基本層IV層から、土師器坏が6点出土している。いずれも小破片資料である。

5. まとめ

今回の調査地点は、大野田官衙遺跡の南西部に位置する。大野田官衙遺跡の官衙域を囲む区画溝の内側にあたり、平成20年度に行われた南側隣接地の調査では、古墳時代前期(埴釜式期)の竪穴住居跡1棟などが検出されている。今回の調査では、基本層V層上面で土坑1基、ピット59基を検出した。遺構の性格や時期を明確にすることはできなかった。



1 第13次調査区全景
(南西から)



2 第14次調査区全景
(南から)



3 第15次調査区全景
(西から)

写真図版1 第13～15次調査

第2節 六反田遺跡

I. 遺跡の概要

六反田遺跡は、仙台市の南東部にあたる太白区大野田字六反田に所在する。JR仙台駅の南西約5.4kmに位置し、名取川の左岸に形成された標高11.0mほどの自然堤防上に立地する。遺跡は、東西約0.10km、南北約0.55kmの範囲におよび、面積は約77,700㎡である。縄文時代から奈良時代の集落跡である下ノ内遺跡、多数の円墳が検出された大野田古墳群、奈良時代の官衙跡と推定されている大野田官衙遺跡などと隣接している。六反田遺跡は、縄文時代から近世にかけての複合遺跡である。発掘調査は1976（昭和51）年から開始された。平成6年度以降は「富沢駅周辺土地区画整理事業」に伴う発掘調査が行われ、その後も個人住宅建築に伴う発掘調査などが断続的に行われている。調査の結果、縄文時代中期後葉から後期初頭の集落、古墳時代の石棺墓・木棺墓、奈良時代から平安時代の集落跡が発見されている。さらに本遺跡と大野田古墳群、袋前遺跡に跨る形で大野田官衙遺跡がある。

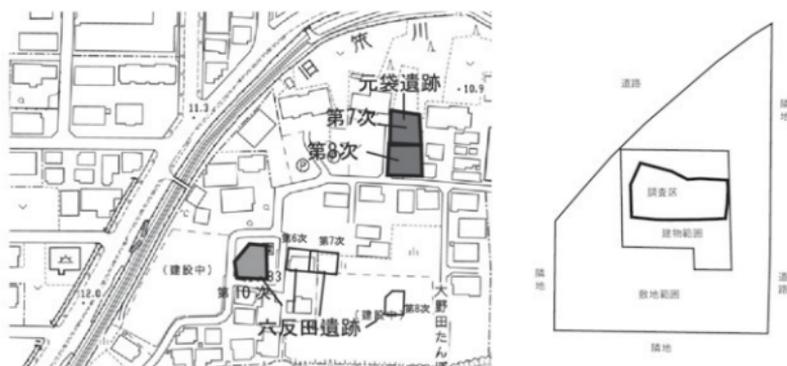
II. 第10次調査

1. 調査要項

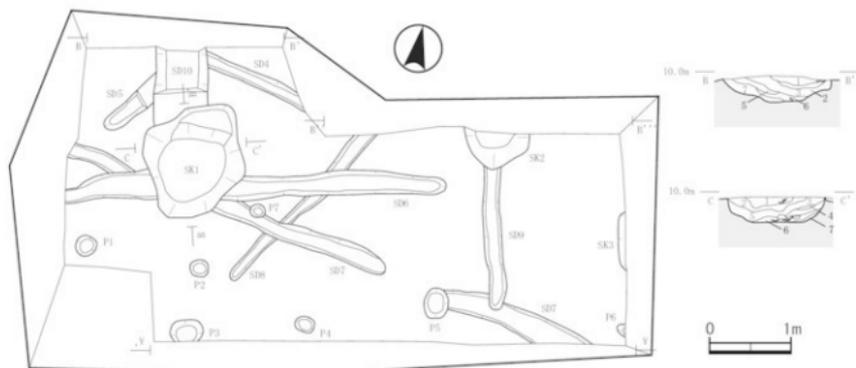
遺跡名	六反田遺跡（宮城県遺跡登録番号01189）		
調査地点	仙台市太白区大野田字元袋1-1の一部、字六反田27-3、27-10、27-21、27-22、27-23の各一部（富沢駅周辺土地区画整理事業20B-7L）		
調査期間	平成25年2月19日～2月22日	調査対象面積	79.8㎡
調査面積	28.3㎡	調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会	調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係
担当職員	主事 小泉博明 文化財教諭 佐藤高陽、伊藤翔太		

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成24年12月21日付で申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」平成24年12月26日付H24教生文第122-355号で回答）に基づき実施した。対象地は、六反田遺跡の北西部にあたる。確認調査は平成25年2月19日に着手した。申請者側が表示した建築範囲内に調査区を設定し、



第6図 六反田遺跡第10次、元袋遺跡第7次・8次調査区位置図、六反田遺跡第10次調査区設定図（1/400）



層位	土色	土質	備考 (遺物取り上げ層位)
1	10YR3/4暗褐色	シルト	焼土と炭化物をブロック状に多く含む (上層)
2	2.5YR4/2暗灰黄色	シルト	にぶい黄褐色 (10YR5/3) シルトをブロック状に多く含む (上層)
3	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	焼土と炭化物を粒状に少量含む (下層)
4	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	黄褐色 (2.5Y5/3) シルトをブロック状に含む (下層)
5	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	黄褐色 (2.5Y5/3) シルトを小ブロック状に少量含む、炭化物を粒状にごく少量含む (下層)
6	10YR3/2黄褐色	粘土質シルト	焼土と黄褐色 (2.5Y5/3) シルトを粒状にごく少量含む (下層)
7	2.5Y 4/2暗灰黄色	粘土質シルト	黄褐色 (2.5Y5/3) シルトを粒状と小ブロック状にやや多く含む (下層)

第7図 第10次調査区平面図、SK1断面図

重機を用いて、盛土と耕作土である基本層Ⅰ層などを掘削して、基本層Ⅴ層上面で遺構検出作業を行った。その結果、溝跡7条、土坑4基、ピット7基を検出し、本発掘調査に移行した。SK1土坑からは、完形を含む多量の土器類が出土したことから、調査区の北西部を拡張して、遺構全体の把握に努めた。調査では、必要に応じて、平面図および断面図を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真の撮影を行った。調査は、2月22日に調査区を埋め戻して終了した。

3. 基本層序

調査区内の盛土厚は約0.60mで、富沢駅周辺土地区画整理事業に伴うものである。その直下に基本層を3層確認した。当該調査区の周辺では、平成6年度以降、富沢駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査などが断続的に行われており、これらの調査では、共通した基本層序が用いられている。今回の調査でも、これまでの調査成果に基づいて、基本層の分層を行っている。なお、本調査区では、過去の削平により、基本層Ⅱ～Ⅲ層が残存していない。

Ⅰ層：調査区全域に分布する。区画整理事業に伴う盛土以前の畑地耕作土で、4層に細分される。

Ⅳ層：調査区全域に黒褐色を呈する粘土質シルトで、黄褐色のシルトを斑状に含む。灰白色火山灰降下以前の畑耕作土もしくはその母材となった土壌と考えられる

Ⅴ層：調査区全域に分布する黄褐色を呈するシルトで、比較的均質である。今回の調査における遺構検出面である。

4. 発見遺構と出土遺物

遺構は、溝跡7条、土坑4基、ピット7基を検出した。調査区壁面の観察から、基本層Ⅳ層上面で確認されるものと基本層Ⅴ層上面で確認されるものに大別される。遺物は基本層、遺構堆積土から土師器、赤焼土器を主体とする土器類が出土している。以下に、遺構について、検出できる基本層ごとに概要を記述する。なお、遺構番号は調査中に付したものを、そのまま記載している。

(1) 基本層Ⅳ層上面検出遺構

SD10 溝跡

調査区北西部で検出した南北方向の溝跡である。SK 1 土坑と重複し、これよりも古い。検出長は約 1.00 m で、さらに調査区外北へ延びる。規模は上端幅約 0.65 m、下端幅約 0.40 m である。深さは約 0.15 ～ 0.50 m である。断面形は逆台形を呈する。堆積土は 2 層に細別され、暗褐色の粘土質シルトで、1 層は焼土や炭化物を含む。いずれも自然堆積土とみられる。遺物は出土していない。

SK 1 土坑

調査区西部で検出した土坑である。SD 10 溝跡と重複し、これよりも新しい。平面形は不整形を呈する。規模は長軸約 1.55 m、短軸約 1.30 m で、深さは 0.30 m ほどである。断面形は逆台形を呈し、底面には高さ約 0.20 m の段がつく。堆積土は 7 層に細別される。上層は、焼土や炭化物を多く含む暗褐色および暗灰黄色のシルトである。下層は暗褐色や黒褐色などの粘土質シルトで、いずれも人為的埋土とみられる。

遺物は土師器環、赤焼土器環を主体として、土器類が多量に出土している。出土遺物は、取り上げ層位から、堆積土、上層と下層に大別される。堆積土から土師器甕 6 点、ロクロ土師器環 26 点・甕 8 点、赤焼土器環 8 点、上層からは土師器環 6 点・甕 12 点、ロクロ土師器環 3 点・甕 3 点、須恵器環 2 点、赤焼土器環 14 点、下層からは土師器環 7 点・甕 13 点、ロクロ土師器環 16 点・甕 7 点、須恵器環 5 点、赤焼土器環 3 点が出土している。このうち、上層のロクロ土師器環 1 点（第 8 図 1）、須恵器環 1 点（第 8 図 10）、赤焼土器 8 点（第 8 図 8・9、15～20）、下層のロクロ土師器環 5 点（第 8 図 2～6）、須恵器環 4 点（第 8 図 11～14）、赤焼土器環 1 点（第 8 図 21）を図示した。

SK 3 土坑

調査区東部で検出した土坑である。他の遺構との重複はない。一部の検出であることから、平面形はおおよび規模などは不明である。深さは 0.25 m 以上である。堆積土は 1 層を確認した。黄褐色のシルトを含む黒褐色の粘土質シルトで、自然堆積土とみられる。遺物は出土していない。

(2) 基本層 V 層上面検出遺構

SD 4 溝跡

調査区西部で検出した北西～南東方向の溝跡である。他の遺構との重複はない。検出長は約 1.30 m で、さらに調査区外へ延びる。規模は上端幅約 0.18 m、下端幅約 0.08 m で、深さは 0.05 m ほどである。断面形は皿状を呈する。堆積土は単層で、にぶい黄褐色の粘土を含む暗褐色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

SD 5 溝跡

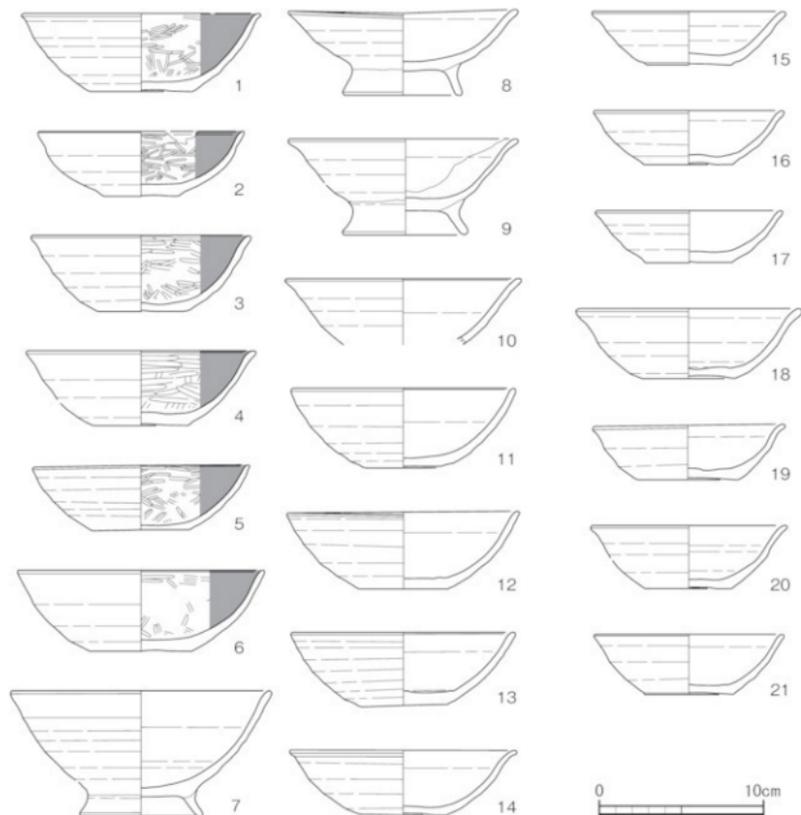
調査区西部で検出した北東～南西方向の溝跡である。他の遺構との重複はない。検出長は約 0.95 m である。規模は上端幅約 0.20 m、下端幅約 0.12 m で、深さは 0.03 m ほどである。断面形は皿状を呈する。堆積土は単層で、にぶい黄褐色の粘土を含む暗褐色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

SD 6 溝跡

調査区西部で検出した東西方向の溝跡である。SD 7 溝跡、SD 8 溝跡と重複し、いずれよりも新しい。検出長は約 4.65 m で、さらに調査区外西へ延びる。規模は上端幅約 0.20 ～ 0.35 m、下端幅約 0.15 ～ 0.25 m で、深さは 0.05 m ほどである。断面形は皿状を呈する。堆積土は単層で、黄褐色のシルトを含む黒褐色の粘土質シルトである。遺物は土師器甕 1 点が出土している。胴部の小破片で、図示することはできない。

SD 7 溝跡

調査区西部から南部で検出した北西～南東方向の溝跡である。SD 6 溝跡、SD 8 溝跡、SD 9 溝跡、P 5、P 7 と重複し、SD 1 溝跡、P 5、P 7 よりも新しく、SD 6 溝跡、SD 9 溝跡よりも古い。検出長は一部、途切れるが約 6.80 m で、さらに調査区外へ延びる。規模は上端幅約 0.20 ～ 0.35 m、下端幅約 0.12 ～ 0.25 m で、深さは 0.02 ～ 0.05 m ほどである。断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、にぶい黄褐色の粘土を含む暗褐色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。



掲載 番号	写真 図版	登録 番号	出土 遺構	出土 層位	種 別	器種	残存	法量 (cm)			調 整			備 考
								口径	底径	器高	外面	内面	底面	
1	D-4	SK1	上層	ロクロナ土師器	杯	1/2	(146)	62	48	ロクロナデ	ハタシ字キ 黒色整理	回転赤切り無調整		
2	D-12	SK1	下層	ロクロナ土師器	杯	1/4	(124)	(46)	40	ロクロナデ	ハタシ字キ 黒色整理	回転赤切り無調整		
3	D-16	SK1	下層	ロクロナ土師器	杯	完形	134	54	47	ロクロナデ	ハタシ字キ 黒色整理	回転赤切り無調整	No.14	
4	D-13	SK1	下層	ロクロナ土師器	杯	2/3	(140)	58	46	ロクロナデ	ハタシ字キ 黒色整理	回転赤切り無調整		
5	D-17	SK1	下層	ロクロナ土師器	杯	完形	132	58	40	ロクロナデ	ハタシ字キ 黒色整理	回転赤切り無調整	No.15	
6	D-14	SK1	下層	ロクロナ土師器	杯	破片	149	62	50	ロクロナデ	ハタシ字キ 黒色整理	回転赤切り無調整	No.9	
7	D-1		1層	赤焼土器	高台杯	1/3	(160)	74	78	ロクロナデ	ロクロナデ	回転赤切り		
8	D-10	SK1	上層	赤焼土器	高台杯	完形	140	70	53	ロクロナデ	ロクロナデ	回転赤切り	No.4	
9	D-9	SK1	上層	赤焼土器	高台杯	2/3	(138)	74	59	ロクロナデ	ロクロナデ	回転赤切り		
10	E-1	SK1	上層	赤焼土器	杯	1/3	(144)	-	41+	ロクロナデ	ロクロナデ	回転赤切り	No.6	
11	E-5	SK1	下層	須恵器	杯	完形	136	46	49	ロクロナデ	ロクロナデ	回転赤切り	No.13	
12	E-2	SK1	下層	須恵器	杯	完形	142	53	48	ロクロナデ	ロクロナデ	回転赤切り無調整	No.7	
13	E-3	SK1	下層	須恵器	杯	完形	136	52	46	ロクロナデ	ロクロナデ 赤てい直	回転赤切り無調整	No.8	
14	E-4	SK1	下層	須恵器	杯	2/3	138	52	41	ロクロナデ	ロクロナデ	回転赤切り無調整	No.10 内面口縁部：油煙状付着物	
15	D-7	SK1	上層	赤焼土器	杯	1/2	(118)	52	33	ロクロナデ	ロクロナデ	回転赤切り無調整	No.1	
16	D-8	SK1	上層	赤焼土器	杯	完形	116	52	33	ロクロナデ	ロクロナデ	回転赤切り無調整	No.2	
17	D-11	SK1	上層	赤焼土器	杯	完形	112	52	32	ロクロナデ	ロクロナデ	回転赤切り無調整	No.5	
18	D-3	SK1	上層	赤焼土器	杯	1/2	(134)	56	43	ロクロナデ	ロクロナデ	回転赤切り無調整		
19	D-5	SK1	上層	赤焼土器	杯	1/3	(117)	62	34	ロクロナデ	ロクロナデ 赤てい直	回転赤切り無調整		
20	D-15	SK1	上層	赤焼土器	杯	1/3	(120)	52	39	ロクロナデ	ロクロナデ	回転赤切り無調整	No.12	
21	D-18	SK1	下層	赤焼土器	杯	完形	117	54	37	ロクロナデ	ロクロナデ	回転赤切り無調整		

第8図 第10次調査出土遺物

SD8 溝跡

調査区中央部で検出した北西～南東方向の溝跡である。SD6溝跡、SD7溝跡と重複し、いずれよりも古い。検出長は約2.50mで、さらに調査区外へ延びる。規模は上端幅約0.15～0.20m、下端幅約0.09～0.13mで、深さは0.01～0.05mほどである。断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、にぶい黄褐色の粘土を含む暗褐色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

SD9 溝跡

調査区東部で検出した南北方向の溝跡である。SD7溝跡、SD8溝跡と重複し、いずれよりも新しい。検出長は約4.65mで、さらに調査区外西へ延びる。規模は上端幅約0.20～0.35m、下端幅約0.15～0.25mで、深さは0.05mほどである。断面形は皿状を呈する。堆積土は単層で、黄褐色のシルトを含む黒褐色の粘土質シルトである。遺物は土師器甕1点が出土している。胴部の小破片で、図示することはできない。

SK2 土坑

調査区東部で検出した土坑である。SD9溝跡と重複し、これよりも新しい。一部の検出であることから、平面形は不明である。規模は東西約0.80m、南北0.50m以上で、深さ0.25mほどである。断面形は逆台形を呈する。堆積土は単層で、黄褐色のシルトを含む暗褐色の粘土質シルトである。自然堆積土とみられる。遺物は出土していない。

ビット

7基を検出した。平面形は円形もしくは楕円形を呈する。堆積土はいずれも単層で、黄褐色のシルト暗褐色のシルトおよび粘土質シルトである。柱痕跡が認められるものや建物跡が想定される配置となるものはない。

遺物は、P1から土師器甕1点、ロクロ土師器杯1点が出土している。また、P2から土師器甕2点、ロクロ土師器杯1点が出土している。いずれも小破片で、図示できるものはない。

遺構外出土遺物

基本層I層から土師器杯3点・甕8点、ロクロ土師器杯8点・甕4点、赤焼土器杯4点・高台杯1点、須恵器杯1点・甕4点が出土している。このうち、高台杯1点(第8図7)を図示した。

5. まとめ

調査地点は、六反田遺跡の北西部に位置する。基本層IV層上面とV層上面で遺構が検出された。

①基本層IV層上面では、溝跡1条、土坑2基を検出した。このうち、SK1土坑からは、坏類を主体として土師器、須恵器、赤焼土器が多量に出土している。

SK1土坑からは、完形を含む多量の土器が一括して出土している。出土した土器には、ロクロ土師器、須恵器、赤焼土器があり、いずれも坏類を主体としている。出土状況から、上層出土土器と下層出土土器に大別される。

上層出土土器は、土坑堆積土中から不規則に重なった状態で出土している。図示したものは10点あり、内訳はロクロ土師器杯1点、須恵器杯1点、赤焼土器杯6点・高台杯2点で、赤焼土器が主体を占める。ロクロ土師器杯はすべて底部回転系切り無調整である。体下部はやや丸みを帯び、口縁部がそのまま収まるものと軽く外反するものがある。底径/口径比は1:0.42である。内面調整はヘラミガキのち黒色処理で、ヘラミガキは体部が横位、底面が放射状である。須恵器杯は体下部がやや丸みを帯び、口縁部が軽く外反する。色調は灰白色を呈し、軟質である。内面調整のロクロ目が不明瞭で、器面は平滑である。赤焼土器杯・高台杯は、杯が底部回転系切り無調整で、いずれも体下部はやや丸みを帯びる。口縁部は軽く外反する。杯の底径/口径比は1:0.42～0.53(平均0.46)である。内面に工具痕を残すものがあり、器面は平滑である。

下層出土土器は、上段の一部が下へ落ちた状態で出土したが、本来、土坑北側下端から壁面に沿って、東西方向に4個体から6個体を上下2列に土器を重ねることなく、口縁部を上にした正位で規則的に据えられたものとみら

れる。図示した坏類は、ロクロ土師器5点、須恵器4点、赤焼土器1点である。ロクロ土師器坏は底部回転糸切り無調整である。体下部はやや丸みを帯び、口縁部がそのまま取まるものと軽く外反するものがある。底径/口径比は1:0.37~0.44(平均0.40)である。内面調整はヘラミガキのち黒色処理で、ヘラミガキは体部が横位、底面が放射状である。須恵器はすべて底部回転糸切り無調整である。体下部はやや丸みを帯び、口縁部がそのまま取まるものと軽く外反するものがある。色調は灰白色を呈し、軟質である。底径/口径比は1:0.34~0.38(平均0.37)である。内面に工具痕を残すものがあり、器面は平滑である。また、黒斑を有するものが多い。赤焼土器坏・高台坏は底部回転糸切り無調整である。体下部はやや丸みを帯び、口縁部が軽く外反する。坏の底径/口径比は1:0.43~0.46(平均0.45)である。内面調整のロクロ目目は不明瞭で、器面は平滑である。

上層出土土器と下層出土土器を比較すると、上層出土土器が赤焼土器坏を主体としているのに対し、下層出土土器ではロクロ土師器坏および須恵器坏が一定量を占めている。一方で、全体の器形、底径/口径比、内外面の調整などでは、大きな隔たりはみられない。

これらの土器群には、①坏類はすべて回転糸切りで底部および体下部に再調整が施されたものがない②下層出土土器には一定量の須恵器が伴う③上層出土土器は赤焼土器坏が主体を占め、坏類には口径が12cm前後の小振りなものが認められる、などの特徴がある。SK1土坑と灰白色火山灰との関係は不明であるが、中野高柳遺跡SX2030の灰白色火山灰上層から出土した土器群との類似性が認められることから、土器群の年代は、10世紀前葉と推定される。

SK1土坑出土土器のように、坏類を主体とした数個体から数十個体の土器が出土する遺構に「土器溜」がある。祭祀もしくは飲食を伴う儀礼に用いられた食膳具を一括廃棄したものと考えられ、坏類は重なった状態で出土することが多い。「土器溜」は多賀城周辺での調査事例が多く、仙台市内でも鹿島遺跡などでも検出例がある。今回のSK1土坑出土遺物も、何らかの祭祀や儀礼などに用いられた土器が廃棄されたと推定される。しかし、下層出土土器についてみると、規則的に配置されたと考えられる出土状況から、土器を土坑内に配置して埋設するまでが一連であり、いわゆる土器溜とは異なった行為であった可能性がある。

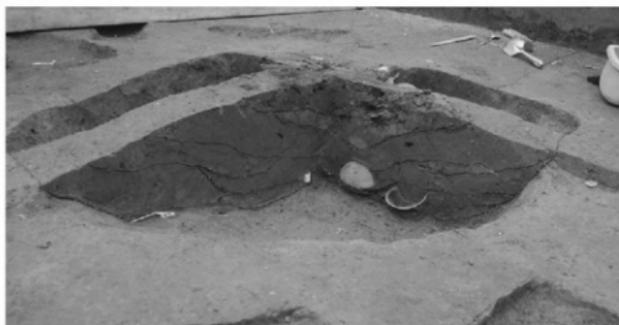
基本層V層上面では、溝跡6条、土坑1基を検出した。このうち溝跡は、小規模の溝跡が数条、平行した配置をとり、今回の調査区周辺に広く分布する小溝状遺構群と類似する。位置や方向から4群に大別され、I群(SD5・8)→II群(SD4・7)→III群(SD6)、IV群(SD9)の変遷がある。富沢駅周辺の発掘調査で検出される小溝状遺構群は、畑耕作に関わるものと考えられており、今回の調査は限定的な面積ではあるが、検出した溝跡についても、同様の性格が想定される。

引用・参考文献

- 宮城県多賀城跡調査研究所1992「多賀城跡第61次調査」『宮城県多賀城跡調査研究所年報1991』
 宮城県教育委員会1984「鹿島・竹ノ内遺跡」宮城県文化財調査報告書第101集
 宮城県教育委員会2006「中野高柳遺跡Ⅳ」宮城県文化財調査報告書第204集



1 調査区全景（南西から）

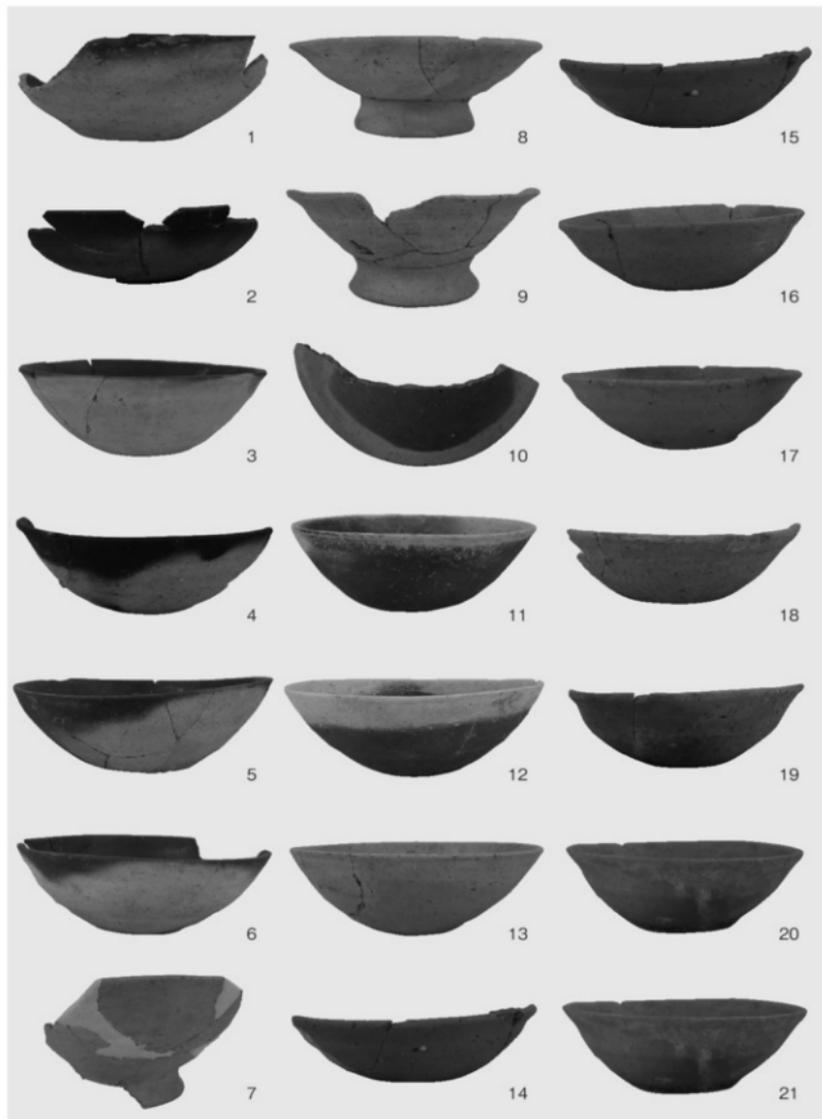


2 SK1 溝跡断面
（南東から）



3 調査区 SK1 溝跡遺物
出土状況（南西から）

写真図版2 第10次調査



写真図版3 第10次調査出土遺物

第3節 元袋遺跡

I. 遺跡の概要

元袋遺跡は太白区大野田に所在する。名取川の支流である荒川が大きく蛇行する南岸の自然堤防上に立地し、標高は9～10mである。遺跡の広がり東西約250m、南北約170mで、面積は約35,000㎡である。南側から西側には大野田遺跡、袋前遺跡、大野田官衙遺跡、六反田遺跡などが近接しており、遺跡の集中する地区となっている。

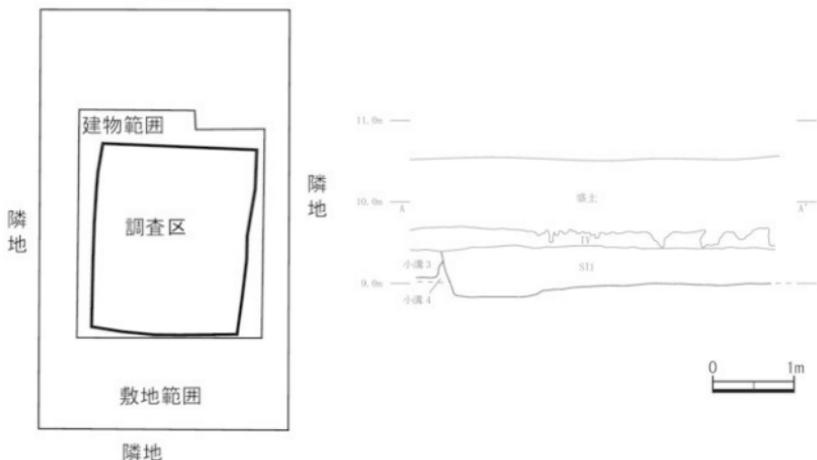
当遺跡におけるこれまでの調査では、縄文時代の遺物、弥生時代の水田跡、古墳時代の土坑などが検出されているが、遺構数が増加するのは奈良～平安時代以降である。奈良～平安時代では多数の竪穴住居跡で構成される集落跡、中・近世では屋敷跡が調査されており、特に近世には伊達家に関係の深い屋敷があったと考えられている。

II. 第7次調査

1. 調査要項

遺跡名	元袋遺跡（宮城県遺跡登録番号01179）
調査地点	太白区大野田字元袋13-1他（富沢駅周辺土地区画整理3街区8L）
調査期間	平成25年3月4日～25日
調査対象面積	64.8㎡
調査面積	28.8㎡
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係、仙台城跡史跡調査室
担当職員	主査 平岡亮輔、佐藤淳 主事 水野一夫 文化財教諭 佐藤高陽、千葉悟、伊藤翔太、佐藤洋平

道路



第9図 第7次調査区設定図（1/200）、北壁断面図

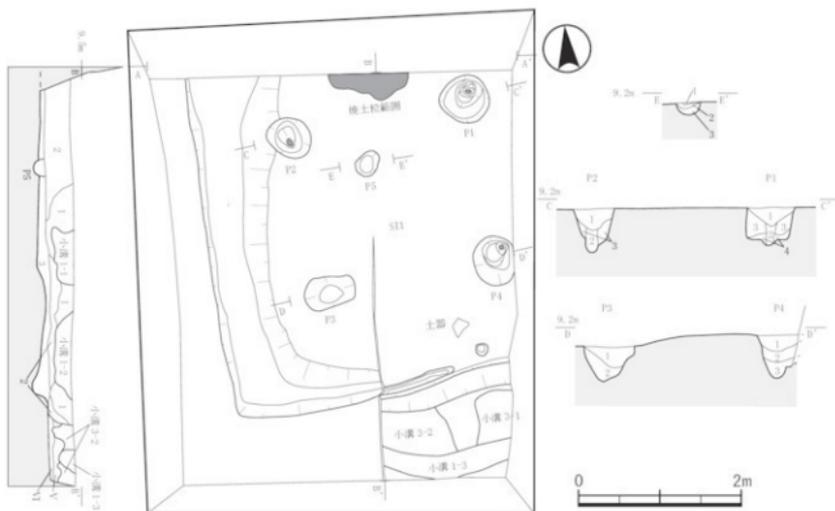
2. 調査に至る経緯と調査方法

今回の調査は、平成24年12月28日付で提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（平成25年1月30日付H24教生文第122-369号で回答）に基づき実施した。

確認調査は3月4日に着手した。建築範囲内に東西3.0m×南北6.0mの調査区を設定し、重機により盛土層を除去した。しかし、その後の遺構確認作業により調査区内で竪穴住居跡が確認され、東側の調査区外に延びることが判明したため、建築範囲内において調査区を東側に1.8m拡張した。

遺構確認作業は基本層V層上面で実施し、竪穴住居跡1軒の他に小溝状遺構群を2群確認した。調査中は必要に応じて平面図と断面図を作成し、記録写真はデジタルカメラを使用した。

3月25日に重機による埋戻しを行い、すべての調査を終了した。



層位	土色	土質	備考
1	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色(10YR5/4)のシルトをブロック状に少量含む
2	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色(10YR5/4)のシルトを小ブロック状にやや多く含む
3	10YR4/4褐色	粘土質シルト	柱方埋土
SI 1-P1・P2			
1	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	柱抜き取り穴
2	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	柱痕跡
3	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	黄褐色シルトをブロック状にやや多く含む 柱方埋土
4	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	黄褐色シルトをブロック状に多く含む 柱方埋土
SI 1-P3			
1	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	焼土と炭化物を小ブロック状に少量含む 柱方埋土
2	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	黄褐色シルトをブロック状に少量含む 柱方埋土
SI 1-P4			
1	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	焼土と炭化物をブロック状に少量含む 柱方埋土
2	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	黄褐色シルトをブロック状にやや多く含む 柱方埋土
3	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	焼土と炭化物をブロック状に少量含む 柱方埋土
SI 1-P5			
1	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	
2	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	焼土と炭化物をブロック状に多く含む
3	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色シルトをブロック状に少量含む

第10図 第7次調査区平面図、SI1断面図

3. 基本層序

最上層は今回の宅地造成に伴う厚さ約30cmの盛土層で、その下部に以前からの厚さ約60cmの盛土層が認められた。盛土層の直下は富沢駅周辺で広く認められる基本層Ⅳ層であり、Ⅰ～Ⅲ層は確認できなかった。基本層Ⅳ層の厚さは20～30cmで、調査区壁面の観察では竪穴住居跡の堆積土の上部にⅣ層が堆積している。

Ⅰ層 10YR4/4 褐色シルト質粘土（現代水田耕作土）

Ⅳ層 10YR3/3 暗褐色粘土。褐色粘土ブロックを少量、焼土粒を微量含む。（古代の畑耕作土）

Ⅴ層 10YR3/4 暗褐色粘土。灰黄褐色粘土を斑文状に少量含む。上面が遺構確認面である。

4. 発見遺構と出土遺物

今回の調査では、基本層Ⅳ層上面～SI1 堆積土上面にかけて小溝状遺構を3条、基本層Ⅴ層上面で竪穴住居跡1軒と小溝状遺構群を3条確認した。

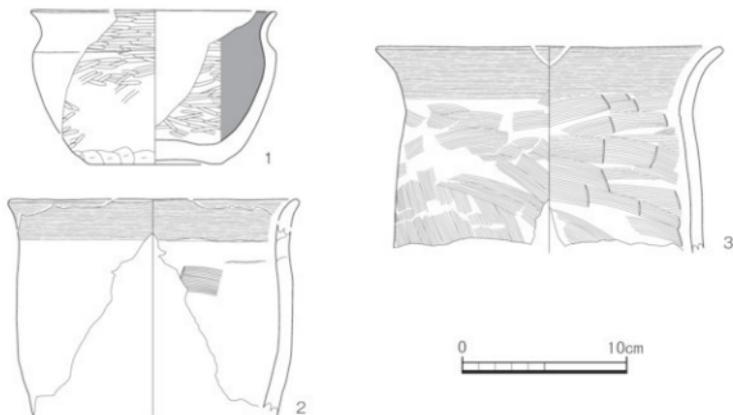
(1) 竪穴住居跡

SI1 竪穴住居跡

住居の中央から西側と南側にかけて確認したが、北辺と東辺が調査区外となっている。規模は南北4.3m以上、東西3.9m以上で、方向は概ね北を基準としている。確認面から床面までの深さは25～35cmで、掘り方を5～30cm埋め戻して床面としている。貼床は確認できなかった。

カマドは確認できなかったが、調査区の北壁際に東西幅1mの範囲で焼土粒が分布していたことから、この部分の北側にカマドがあった可能性がある。

床面上ではピット5基を確認したが、このうち4基は主柱穴と考えられる。掘り方はP3が35×60cmの不整な長方形であるが、その他は長軸55～60cm×短軸45～60cmの円形あるいは楕円形を呈し、深さは40～50cmである。P1・P2には明瞭な抜き取り痕跡が認められ、抜き取りの下面で直径10～15cmの柱痕跡が確認できた。なお、P1・P2共に柱痕跡の底面は掘り方底面よりも約5～10cm窪んでいるが、柱痕跡が確認できなかったP4も掘



掲載 番号	写真 図取	登録 番号	出土 遺構	出土 部位	種 別	器種	残存	法量 (cm)			調 整		備 考		
								口径	底径	器高	外面	内面			
1	6-1	C-2	SI1	1層	土師器	鉢	2/3	(14.9)	9.5	8.0	ヘラナシ	ヘラナシ	黄色粘土		
2	6-2	C-1	SI1	床面	土師器	甕	一部	(17.6)	-	13.4+	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラナデ		
3	6-3	C-3	SI1	床面	土師器	甕	一部	(21.1)	-	12.7+	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ヘラナデ	

第11図 第7次調査出土遺物

り方底面の一部が窪んでいることから、この部分に柱があった可能性が高い。P5は住居の中心近くに位置し、炭化物や焼土ブロックを含んでいる。性格は不明である。

周溝は南壁際で部分的に確認できた。幅約10cm、深さ約7cmである。

堆積土は暗褐色粘土質シルトで、にぶい黄褐色シルトブロックの混入の度合いによって2層に分層できる。

遺物は、床面及び堆積土中から非ロクロ土師器が約30点出土している。このうち、堆積土中から出土した鉢（第11図1）と床面上から出土した甕（第11図2）が図化できた。1は内外面共にヘラミガキ・黒色処理が施されている。2はナデ調整である。

南北方向の小溝状遺構群を切り、東西方向の小溝状遺構群に切られている。

(2) 小溝状遺構群

小溝状遺構群 A 群

調査区拡張後、SI 1の堆積土上面で東西方向の小溝状遺構を3条（SD1～3）確認した。本来は調査区西半部にも続いていたと考えられる。幅はSD1が45～70cm、SD2が100～120cmと広いが、SD3は35cmと狭い。深さは約30cmである。堆積土は暗褐色粘土質シルトを主体とし、北側のSD1下層には炭化物や焼土の小ブロックを含んでいる。

遺物は、堆積土中から非ロクロ土師器が26点出土しており、ナデ調整の甕1点（第11図3）が図化できた。SI 1に切られている。

小溝状遺構群 B 群

SI 1の南側で南北方向の小溝状遺構を3条（SD4～6）確認した。部分的な確認であるため詳細は不明であるが、幅が90cm以上のものもある。深さは20～30cmで底面は起伏が激しい。堆積土は黄褐色シルトブロックを多量に含む黒褐色粘土質シルトである。

遺物は、SD4堆積土中から須恵器片、土師器片が3点出土している。SI 1に切られている。

(3) その他の出土遺物

基本層IV層中から土師器片が約30点出土した。

5. まとめ

今回の調査で確認できた遺構は、小溝状遺構群 B 群→SI 1→小溝状遺構群 A 群の順で変遷する。SI 1の年代は、出土した遺物がすべて非ロクロ調整であること、第11図で示したように内外面ヘラミガキ・黒色処理の鉢やナデ調整の甕の存在から概ね8世紀頃と推定される。



写真図版4 第7次調査(1)

引用・参考文献

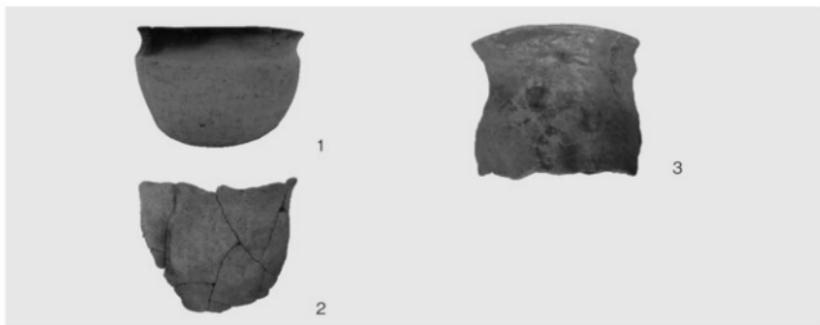
- 仙台市教育委員会
- 2004『元袋遺跡 一都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡一発掘調査報告書Ⅱ』
- 仙台市文化財調査報告書第272集

1 調査区全景 (北から)



2 北壁断面（南から）

写真図版5 第7次調査(2)



写真図版6 第7次調査出土遺物

II. 第8次調査

1. 調査要項

遺 跡 名	元袋遺跡（宮城県遺跡登録番号 01179）
調 査 地 点	太白区大野田字元袋13-1 他（富沢駅周辺土地区画整理3街区13L）
調 査 期 間	平成25年3月7日～26日
調 査 対 象 面 積	67.2㎡
調 査 面 積	13.6㎡
調 査 原 因	個人住宅建築工事
調 査 主 体	仙台市教育委員会
調 査 担 当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係、仙台城跡史跡調査室
担 当 職 員	主査 平岡亮輔、佐藤淳 主事 水野一夫 文化財教諭 佐藤高陽、千葉悟、伊藤翔太、佐藤洋平

2. 調査に至る経緯と調査方法

今回の調査は、平成24年12月28日付で提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（平成25年1月30日付

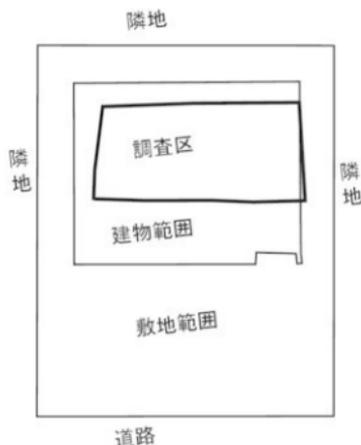
H24 教生文第 122-370 号で回答)に基づき実施した。

確認調査は3月7日に着手した。建築範囲内に東西62m×南北2.2mの調査区を設定し、重機により盛土層を除去した。遺構確認作業は基本層V層上面で実施した。調査中には必要に応じて平面図と断面図を作成し、記録写真はデジタルカメラを使用した。

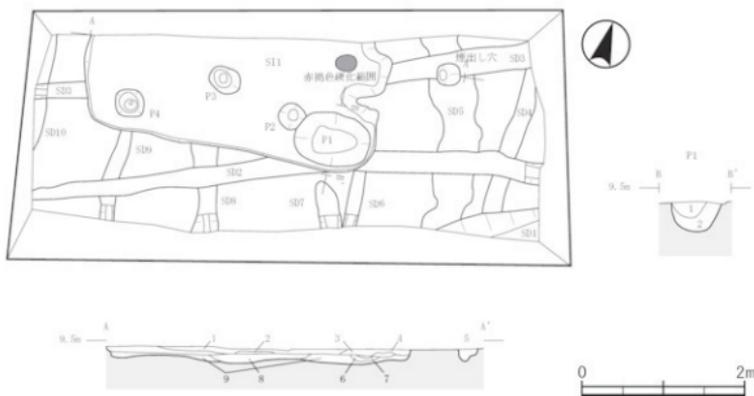
すべての調査が終了した3月26日に重機による埋戻しを行った。

3. 基本層序

最上層は今回の宅地造成に伴う厚さ約30cmの盛土層で、その下に以前からの厚さ約60cmの盛土層が認められた。盛土層の直下では富沢駅周辺で広く認められる基本層Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ層を確認した。



第12図 第8次調査区設定図 (1/200)



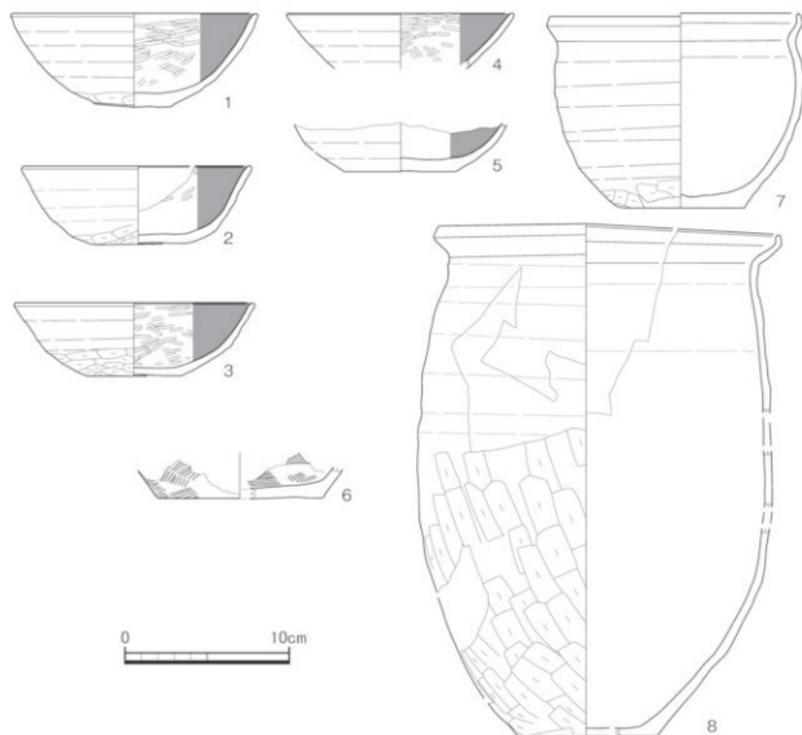
SI 1

層位	土色	土質	備考
1	10YR3/3暗褐色	粘土	焼土と炭化物を粒状にごく少量含む 住居内埋積土
2	10YR3/3暗褐色	粘土	炭化物を粒状に多く含む、焼土を粒状に少量含む 住居内埋積土
3	10YR3/3暗褐色	粘土	炭化物を粒状と焼土をブロック状に多く含む 住居内埋積土
4	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土	焼土をブロック状に少量含む カマド崩落土
5	10YR3/2黒褐色	粘土	焼土をブロック状に少量含む 煙出しピット埋積土
6	5YR3/6暗赤褐色	粘土	被熱により住居掘方埋土が赤変硬化した範囲
7	7.5YR3/4暗褐色	粘土	被熱により住居掘方埋土が赤変した範囲
8	10YR3/3暗褐色	粘土	にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘土をブロック状に、焼土と炭化物を粒状に少量含む 住居掘方埋土
9	10YR3/3暗褐色	粘土	黒褐色(10YR3/2) 粘土をブロック状に少量含む 住居掘方埋土

SI 1-P1

1	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	焼土と炭化物を粒状に多く含む
2	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	褐色(10YR4/4) 粘土を塊状に少量含む、焼土と炭化物を粒状に少量含む

第13図 第8次調査区平面図、SI1断面図



第14図 第8次調査出土遺物

掲載 番号	写真 図版	登録 番号	出土 遺構	出土 層位	種 別	器種	残存	法量 (cm)			調 整			備 考	
								口径	底径	器高	外面	内面	底面		
1	8-1	D-7	SI F1		ロクロナ土師器	杯	2/3	14.8	4.6	5.8	ロクロナ	白土色	黒色地肌	回転糸織り無調整	
2	8-2	D-6	SI F1		ロクロナ土師器	杯	4/5	14.1	5.5	4.9	ロクロナ	白土色	黒色地肌	回転糸織り無調整	
3	8-3	D-5	SI F1		ロクロナ土師器	杯	ほぼ 完整	14.6	4.5	5.8	ロクロナ	白土色	黒色地肌	回転糸織り無調整	
4	8-4	D-2	SH		ロクロナ土師器	杯	1/4	(13.8)	—	3.4+	ロクロナデ	白土色	黒色地肌	回転糸織り無調整	
5	8-5	D-3	SH		ロクロナ土師器	杯	一部	—	6.8	3.0+	ロクロナデ	白土色	黒色地肌	回転糸織り無調整	
6	8-6	C-1	SH		土師器	甕	一部	—	110.0	2.8+	ハケメ	ハケメ	刷代敷	外面：縄文付遺物	
7	8-7	D-4	SH		ロクロナ土師器	甕	4/5	15.2	7.8	12.0	ロクロナ	白土色	黒色地肌	回転糸織り	
8	8-8	D-8	SH 埋藏穴		ロクロナ土師器	甕	7/8	20.7	8.6	31.4	ロクロナ	白土色	黒色地肌	回転糸織り	内外面：縄文付遺物

I層 10YR/4 褐色シルト質粘土 (現代水田耕作土)

IV層 10YR3/3 暗褐色粘土。褐色粘土ブロックを少量、焼土粒を微量含む。(古代の畑耕作土)

V層 10YR3/4 暗褐色粘土。灰黄褐色粘土を斑文状に少量含む。上面が遺構確認面である。

4. 発見遺構と出土遺物

今回の調査では、竪穴住居跡1軒、溝跡1条、小溝状遺構群2群(9条)確認した。

(1) 竪穴住居跡

SI 1 竪穴住居跡

調査区中央で確認したが、北半部が調査区外となっている。規模は東西3.7m、南北1.4m以上で、東辺の南寄

りにカマドが設置されている。

床面は掘り方を10～15cm埋め戻して構築されており、確認面から床面までの深さは約10cmである。貼床は確認できなかった。

床面上ではピット4基(P1～4)を確認した。P1は深さ約35cmで、カマドの南脇に位置することから貯蔵穴と考えられる。P2～4は深さ約35cmで、P4の底面には柱の痕跡と推定される窪みが認められた。

カマドは右ソデが南東コーナーから約1mの位置にある。燃焼部は幅約30cm、奥行き約50cmで、中央部には20×25cmの楕円形の範囲で被熱による硬化面がある。煙道は残存していなかったが、カマド奥壁から約60cm東側に煙道先端と考えられるピットを確認している。

堆積土は暗褐色粘土を主体とし、木炭粒や焼土粒の混入の度合いによって4層に分層できる。

遺物は、堆積土、床面、ピットなどからロクロ土師器片が約110点、須恵器片が5点出土しているが、このうち土師器片5点と甕3点が図化できた。第14図1～3の坏はP1から出土したものである。いずれも体部がやや膨らみ、口縁部が僅かに外反する器形で、底部は回転糸切無調整、体部下端に手持ちへら削り再調整が施され、底径口径比が0.31～0.40と小さいなどの共通点を持つ。8の甕はP2から、その他は堆積土中から出土したものである。

小溝状遺構群を切っている。

(2) 溝跡

SD1 溝跡

調査区南東コーナーで部分的に確認したのみであるので、詳細は不明である。幅40cm以上、深さが35cm以上で、他の小溝状遺構に比べて規模が大きいため小溝状遺構とは区別した。

須恵器甕の破片が2点出土している。

(3) 小溝状遺構群

東西方向のA群(SD2・3)、南北方向のB群(SD4～10)があり、A群がB群を切っている。なお、各群ともSI1に切られている。堆積土は暗褐色粘土で、部分的に褐色粘土ブロックを含んでいる。SD5のみが幅30～55cmと広いが、他は10～30cmである。一部の小溝を部分的に掘り下げたが深さは6～15cmであった。

5. まとめ

今回の調査で確認できた遺構は、小溝状遺構群B群→小溝状遺構群A群→SI1の順で変遷する。

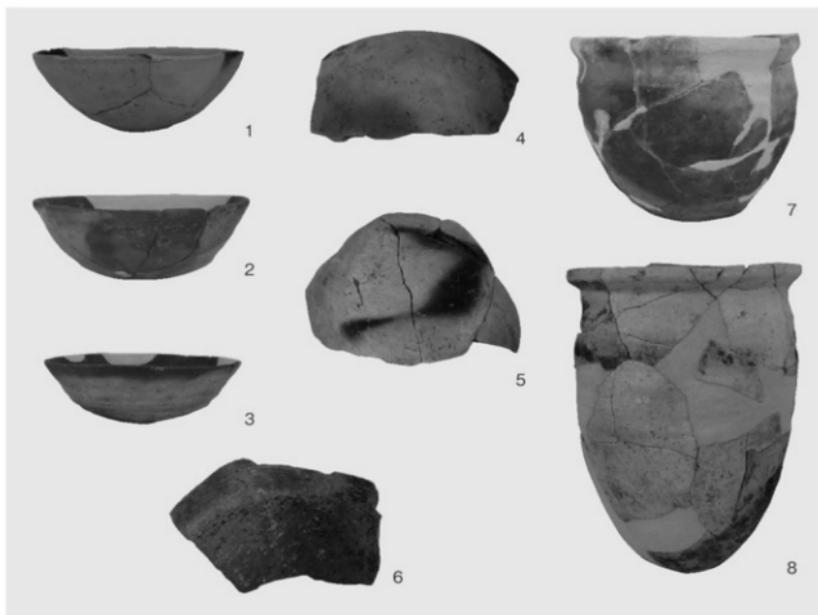
SI1のP1から出土した土師器坏3点(第14図1～3)は、①体部がやや膨らみ、口縁部が直線的かあるいは僅かに外反する器形であること、②底部は回転糸切無調整で体部下端に手持ちへら削り再調整が施されることなどの特徴から、多賀城跡五万崎地区で調査されたSK2272出土土器群に類似している。ただし、多賀城跡SK2272出土土器の底径口径比は0.44～0.59であり、当遺跡SI1出土土器のほうが0.31～0.40とさらに小さいことから、当遺跡の方がやや新しい要素を持っている可能性はある。しかし、今回の資料数は3点と少ないため、この違いがそのまま細かな年代差を示すものと断定はできない。年代については、SK2272出土土器群と同様の9世紀第3四半期頃と考えておきたい。

なお、調査区北側の壁面観察では、SI1の堆積土を覆って基本層IV層が堆積していた。V層上面における遺構の重複関係は、SI1が基本層IV層耕作土に伴う小溝状遺構群を切っていたので、壁面から読み取れる切り合い関係と矛盾している。これは本来基本層IV層上面から掘りこまれていたSI1が埋没した後に再度IV層が耕作されてSI1上半部が攪拌された結果、基本層IV層が残存したSI1堆積土を覆うように見えるためと考えられる。

参考文献 宮城県多賀城跡調査研究所 1994「五万崎地区」『多賀城跡』多賀城跡調査研究所年報1994



写真図版7 第8次調査 調査区全景（南西から）



写真図版8 第8次調査 出土遺物

第4節 大野田遺跡

I. 遺跡の概要

大野田遺跡は太白区大野田に所在する。名取川の支流である芥川が大きく蛇行する南岸の自然堤防上に立地し、標高は9～10mである。遺跡の広がりは東西約100m、南北約250mで、面積は約24,000㎡である。南側には王ノ壇遺跡、西側には袋前遺跡、大野田官衙遺跡（当遺跡と一部重複）、六反田遺跡、大野田古墳群などが近接している。

当遺跡では、平成5～6年に都市計画道路建設に伴う調査で、縄文時代後期前半の環状集石群や配石群、遺物包含層などが検出されている。大野田官衙遺跡は平成21年に遺跡登録された遺跡で、東西188～198m、南北245～249mの範囲が大溝で区画され、内部では南北方向に軸線をそろえた掘立柱建物跡が検出されている。

II. 第4次調査

1. 調査要項

遺跡名	大野田遺跡（宮城県遺跡登録番号01094）
調査地点	太白区大野田字袋前52-2、52-3、 道路の各一部（11B-5L）
調査期間	平成25年7月17日～30日
調査対象面積	建築面積130.5㎡ 調査面積26.0㎡
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課整備活用係
担当職員	主事 及川謙作 文化財教諭 石山智之、伊藤翔太



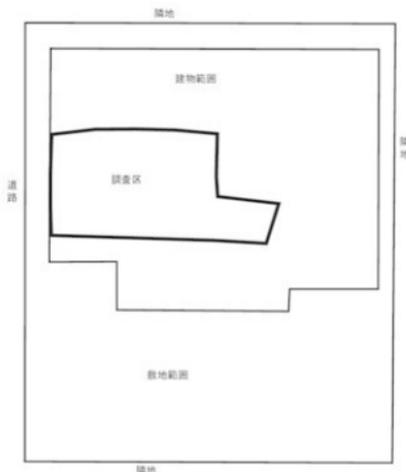
2. 調査に至る経緯と調査方法

今回の調査は、平成25年6月12日付で提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（平成25年6月24日付H25教生文第123109号で回答）に基づき実施した。

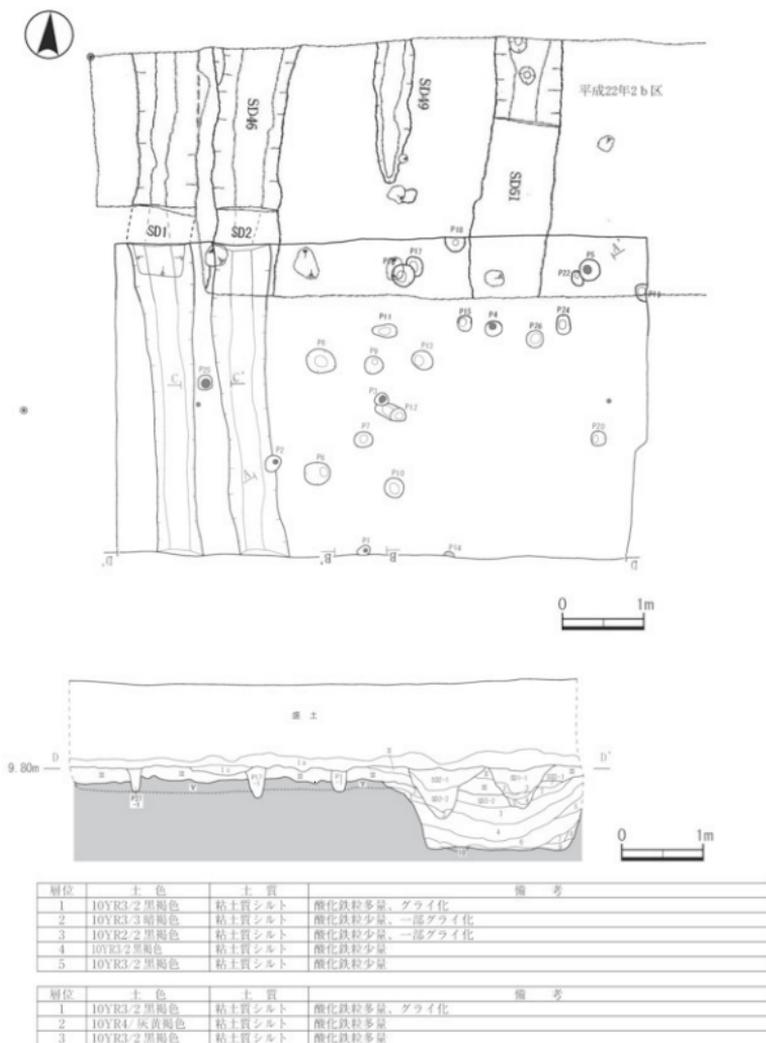
調査は平成25年7月17日に着手した。建築範囲内に東西6.5m×南北4.0mの調査区を設定し、重機により盛土及び基本層Ⅰ～Ⅲ層を除去した。

遺構検出作業はV層上面で実施し、調査中には必要に応じて遺構平面図・断面図を作製した。記録写真はデジタルカメラを用いて撮影した。また調査中に富沢駅周辺の座標（T.0）から、トランシット等を用いて基準点、水準点の計測を行なった。

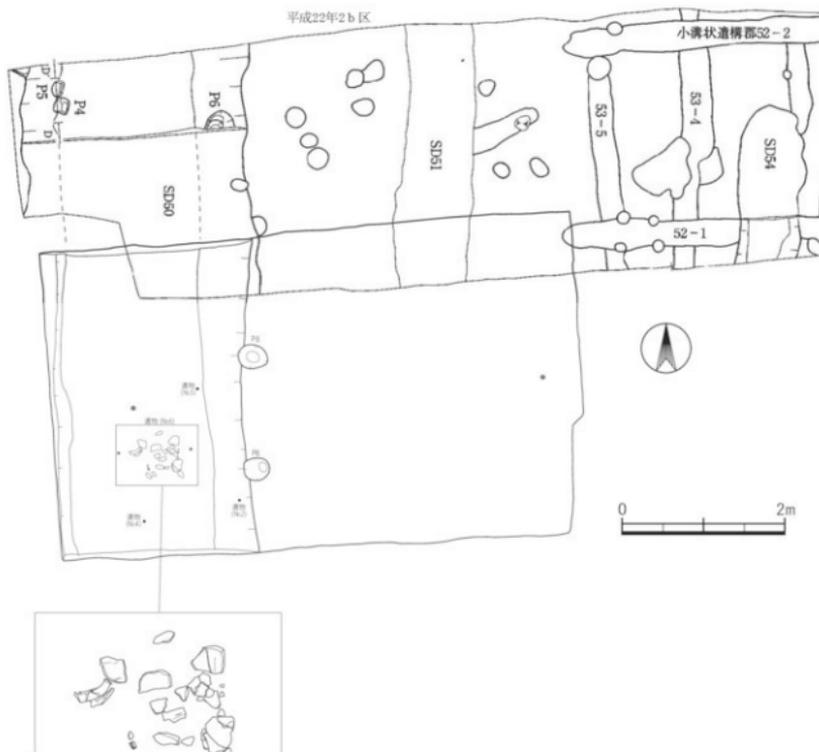
全ての調査が終了した7月30日に埋め戻しを行ない、調査を終了した。



第15図 第4次調査区位置図、設定図



第16図 第4次調査区平面・断面図(1)



SD3

層位	土色	土質	備考
1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	黒褐色 (10 Y R 3/1) シルト (φ3 ~ 5mm) を粒状に含む
2	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	黒褐色 (10 Y R 3/1) シルト (φ3 ~ 5mm) を少量含む
3	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄を球状に多量
4	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	
5	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘土質シルトを小ブロック状に含む
6	10YR3/2黒褐色	粘土	
7	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	
8	10YR4/4褐色	砂質シルト	
9	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	
10	10YR4/2灰黄褐色	シルト	酸化鉄粒少量

第17図 第4次調査区平面図(2)

3. 基本層序

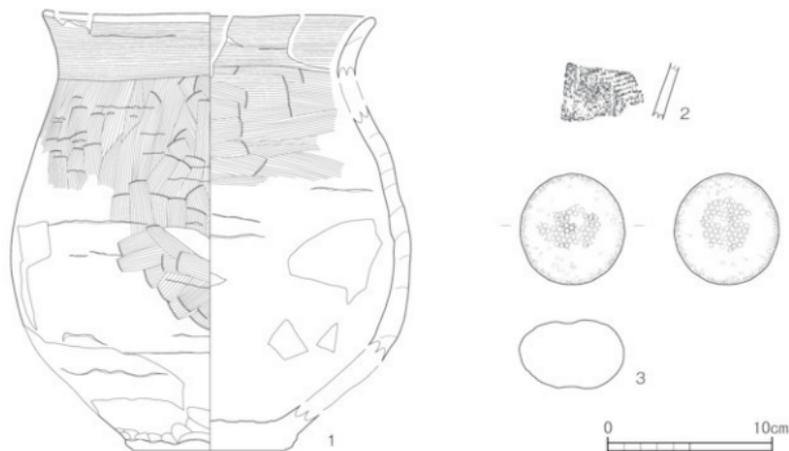
調査区には盛土が約80～100cmあり、その直下で富沢駅周辺において広く確認されている基本層を4層確認した。

I層：10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト。現代水田耕作土。

II層：10YR2/2 黒褐色砂質シルト。部分的な分布。灰白色火山灰ブロック（直径30mm）を少量含む。

III層：10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質シルト。黒褐色シルトブロック（直径2～10mm）を多量に含む。

V層：10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト。



掲載 番号	写真 図版	登録 番号	出土 遺構	出土 層位	種 別	器種	残存	法量 (cm)			調 査			備 考
								口径	底径	器高	外面	内面	底面	
1	11-1	C-1	SD3	4層	土師器	甕	ほぼ 完形	19.8	9.0	27.0	ヨコナデ ナデ ハナナデ	ヨコナデ ナデ ハナナデ	ナデ	
2	11-2	A-1	SD3	2層	縄文土器	深鉢	一部	-	-	-				
3	11-3	K-1			礫石器	敲石	完形	6.7	6.3	4.2				両面に使用 痕跡 重量: 197.2g

第18図 第4次調査出土遺物

4. 発見遺構と出土遺物

今回の調査地点は、大野田遺跡の西辺、大野田官衙遺跡の東辺に位置し、平成22年度に国庫補助事業による範囲確認調査が行われた大野田官衙遺跡2b区と同一の敷地内にあたる。

今回の調査では、溝跡3条、ピットが25基検出された。ピットのうち6基から柱痕跡が認められた。また各遺構と遺構検出面から、土師器、縄文土器片、礫石器（凹石等）が出土している。

(1) 溝跡

SD1 溝跡

調査区の西端部、SD3堆積土の上面で確認された南北方向の溝跡で、2b区で検出されたSD47と同一の溝跡である。方向はN-8°-Wを測り、やや西に振れる。調査区南壁の観察では、SD3埋没後に流入した基本層Ⅲb層や、その直上を覆う暗褐色土を切って掘りこまれているのが確認できる。断面形状は逆台形を呈する。検出長は約3.8mで、上幅は約45～75cm、下幅25～30cm、遺構検出面からの深さは約30～40cmである。堆積土は5層に細分される。遺物は出土しなかった。

SD2 溝跡

調査区の西側、SD1溝跡の東側に並行する南北方向の溝跡で、2b区で検出されたSD46と同一の溝跡である。方向はN6°-Wを測り、やや西に振れる。SD1と同様にSD3埋没後に流入した基本層Ⅲb層を切って掘りこまれている。断面形状は、上部は浅い皿型を、下は「V」字型を呈する。検出長は約3.8mで、上幅は約50～65cm、下幅は20～30cm、遺構検出面からの深さは約30～40cmである。堆積土は3層に細分される。堆積土中から土師器片と縄文土器片、礫石器（凹石）などが出土している。P2に切られている。

SD3 溝跡

調査区の西側で検出された南北方向の溝跡で、2b区で検出されたSD50と同一の溝跡である。方向はN-0°-Eを測る。調査区南壁の観察では、基本層V層を切って掘り込まれ、ほぼ埋没した後に基本層Ⅲb層が堆積土上面の窪みに流入した状況が見取れる。なお、当調査区では基本層Ⅳ層が未確認のためⅣ層との関係は不明である。断面は逆台形を呈するが、上面に行くほど傾斜が緩くなる。検出長は約3.8mで、遺構検出面からの深さは約80～90cmを測る。溝の西側上端が調査区外になるため上幅は不明だが、下幅は約1.6mである。前述した基本層Ⅲb層以下の堆積土は10層に細分される。堆積土中から土師器片と縄文土器片(第18図2)、また凹石などの礫石器(第18図3)、剥片石器などが出土している。また堆積土4層から土師器の甕が1個体分、一括で出土している(第18図1)。非クロク調整で体部外面はヘラナデが施されている。SD1・2、P2・6・8・25に切られている。

(2) ビット

ビットは25基検出された。柱痕跡が確認されたのはP1～5・25で、このうちP2～5が1直線上に並び、柱間の寸法、掘方の規模や深さも同規模であることから、掘立柱建物跡、もしくは柱列跡を構成する可能性があるが、他に展開するビットは確認できなかった。また、他のビットも建物跡などを構成するような配置は確認できなかった。

5. まとめ

今回の調査区は、大野田遺跡の西辺、大野田官衙遺跡の東辺に位置し、平成22年度に国庫補助事業による範囲確認調査が行われた大野田官衙遺跡2b区と同一の敷地内にあたる。大野田官衙遺跡2b区からは官衙東辺区画溝と考えられるSD50が検出されているが、今回の調査区からもその延長にあたるSD3が検出された。SD3の堆積土下層から出土した土師器の甕は、器形や調整技法から概ね7世紀後半～8世紀前半と考えられる。

また、この官衙の区画溝よりも時期が新しい2条の溝跡(SD46・47溝跡)の延長に当たるSD1・2溝跡も検出された。この溝跡は古代末から中世の道路側溝として機能していた可能性が考えられる溝跡であり、他の調査区では東西の道路側溝に挟まれる形で道の痕跡、波板状凹凸などが検出されているが、今回の調査区からはそのような痕跡は確認できなかった。

参考文献

仙台市教育委員会 2011「大野田官衙遺跡」『郡山遺跡31』仙台市文化財調査報告書第394集



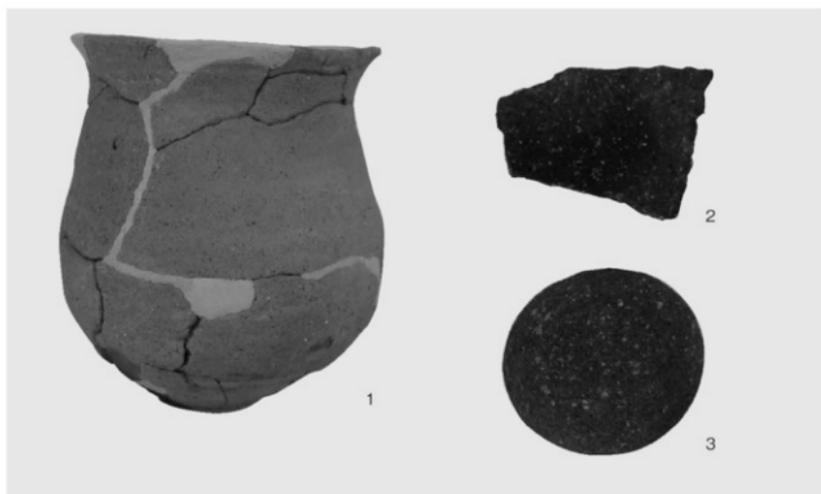
1 調査区全景
(南西から)

写真図版9 第4次調査(1)



SD3 溝跡断面
(南から)

写真図版 10 第4次調査 (2)



写真図版 11 第4次調査出土遺物

第5節 王ノ壇遺跡

I. 遺跡の概要

王ノ壇遺跡は仙台市太白区大野田字王ノ壇に所在し、仙台市営地下鉄南北線富沢駅から東へ約0.8kmに位置する。広瀬川と名取川に挟まれた郡山低地とよばれる沖積地の中にあり、名取川に注ぐ柴川右岸の標高10～11mの自然堤防上に立地する。周辺には、副葬された革盾が出土した春日社古墳をはじめ40基以上の古墳が確認されている大野田古墳群、7世紀末から8世紀初頭に機能した官衙跡と推測されている大野田官衙遺跡などの遺跡が分布する。

王ノ壇遺跡では、昭和63年から平成4年にかけて行われた第1次調査で、13世紀後半から14世紀前半の区画を有する屋敷跡や道路跡など、中世を中心とした遺構群が発見されている。第2次調査では、1次調査で検出された道路跡の延長部分が調査され、両側側溝をもつ道路跡が360mにわたって確認され注目された。この道路跡は、構造・規模などから、中世に鎌倉との往還を目的に整備された幹線道路である「奥大道」である可能性が想定されている。

II. 第7次調査

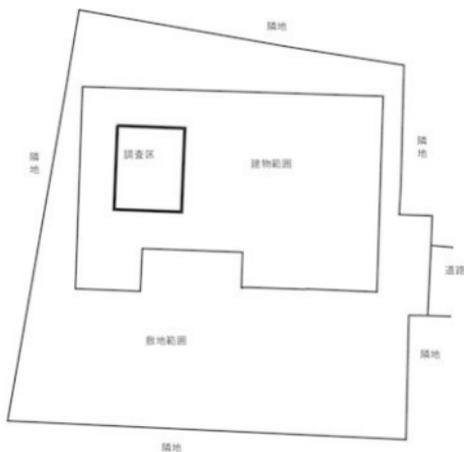
1. 調査要項

遺跡名	王ノ壇遺跡（宮城県遺跡登録番号01428）
調査地点	仙台市太白区大野田二丁目208番3の一部
調査期間	平成25年8月2日～9日
調査対象面積	184.3㎡
調査面積	39.3㎡
調査原因	個人専用住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部 文化財課調査調整係
担当職員	主事 黒田智章 文化財教諭 佐藤高陽



2. 調査地点に至る経緯と調査経過

今回の調査区は遺跡の中央部に位置し、第1次調査1区の東側にあたる。今回の調査は、平成25年5月13日付で提出された、「埋蔵文化財発掘の届出」（平成25年5月20日付H25教生文第123-75号で回答）に基づき、平成25年8月2日に着手した。申請者が設定した建築範囲内に6×6mの調査区を設定し、重機により盛土および基本層Ⅰ層・Ⅳ層・Ⅴ層を掘削した。遺構検出作業は基本層Ⅵ層上面で行い、溝跡2条、土坑1基、ピット20基を確認した。その後、調査区南部に1×4mの下層調査区を



第19図 第7次調査区位置図、設定図 (1/400)

設定し掘削を行ったが、VI層が1m以上の層厚を有することを確認した。8月9日に調査区を埋め戻し、調査を終了した。

3. 基本層序

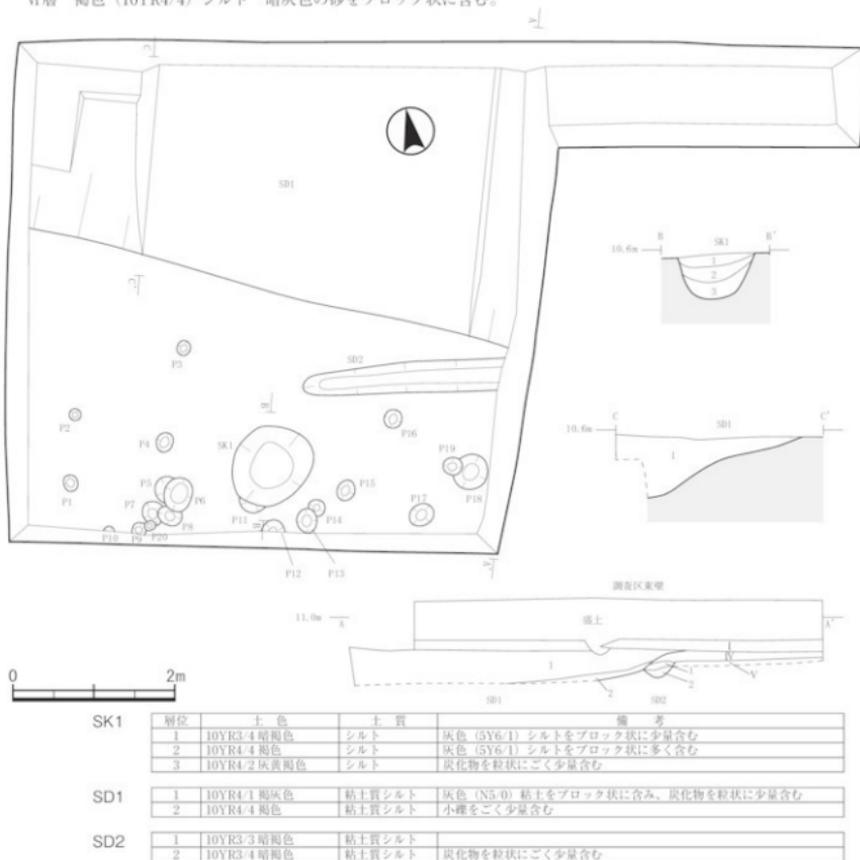
調査区内の盛土は約0.5mで、盛土以下の基本層は4層を確認した。なお、今回の調査における遺構検出面である基本層VI層上面までの掘削深度は約0.8mである。確認した基本層は、王ノ壇遺跡第1次調査で用いられている層位に対応させている。

I層 灰色 (N5/0) 粘土 現代の水田耕作土。

IV層 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト 炭化物を粒状にごく少量含む。

V層 暗褐色 (10YR3/4) 粘土質シルト

VI層 褐色 (10YR4/4) シルト 暗灰色の砂をブロック状に含む。



第20図 第7次調査区平面・断面図

4. 発見遺構と出土遺物

Ⅵ層上面で溝跡2条、土坑1基、ピット20基を検出した。

(1) 溝跡

SD1 溝跡

調査区北側で検出された北西から南東方向の溝跡である。検出長は約6.0mで、さらに調査区外へ延びる。幅は約3.2m以上、深さは約0.7m以上である。堆積土は、調査区東壁断面では2層を確認できたが、調査区西壁際の深掘り部分では分層することができなかった。検出したのはⅥ層上面だが、調査区東壁断面で確認したところ、遺構はⅣ層上面から掘り込まれている。

遺物は土師器甕の破片1点、剥片1点が出土しているが、図化可能な資料ではない。

SD2 溝跡

調査区東側で検出された東西方向の溝跡である。検出長は約2.5mで、さらに調査区外東側へ延びる。幅は約0.4m、深さは約0.4mである。堆積土は2層を確認した。検出したのはⅥ層上面だが、調査区東壁断面で確認したところ、遺構はⅤ層上面から掘り込まれている。規模等から、畑耕作痕と考えられている小溝状遺構の可能性がある。遺物は出土していない。

(2) 土坑

SK1 土坑

調査区南側で検出した円形の土坑である。長軸長約0.92m、深さ約0.6mである。堆積土は3層を確認した。P11と重複しており、これより新しい。遺物は出土していない。

(3) ピット

調査区南側で計20基のピットを確認した。いくつか重複するものも存在する。柱痕跡が確認できたのはP6のみであるが、柱痕跡は断面では確認できず、底面で色調が変化した痕跡を確認したに留まる。堆積土は暗褐色(10YR3/3)粘土質シルトで、径3～5mmの炭化物粒を少量含む。遺物は出土していない。

遺構外出土遺物

基本層Ⅲ層から土師器甕の破片1点、剥片1点が出土しているが、図化可能な資料ではない。

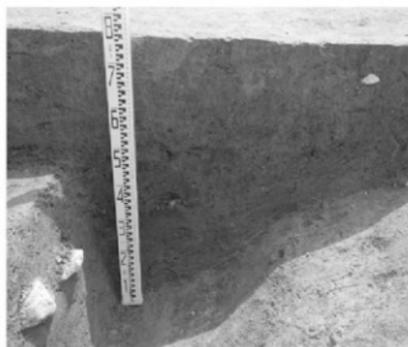
5. まとめ

調査地点は、王ノ壇遺跡の中央部に位置する。西側隣接地では、平成元年から行われた第1次調査で区画溝に囲まれた中世の屋敷跡が発見されている。今回の調査にあたり、この中世の屋敷跡に関連する遺構の検出が想定されたが、中世の遺構検出面である基本層Ⅲ層が確認できず、また中世のものと思われる遺物も出土しなかった。調査区北側で検出したSD1は、基本層Ⅳ層より上から掘り込まれている可能性もあり、方向も屋敷の区画溝に類似するが、積極的に評価できるものとは言えない。

参考文献 仙台市教育委員会 2000 「王ノ壇遺跡」仙台市文化財調査報告書第249集



1 調査区全景（北西から）



2 SD1 溝跡深掘部分断面図（南西から）



3 SD2 溝跡断面（南から）

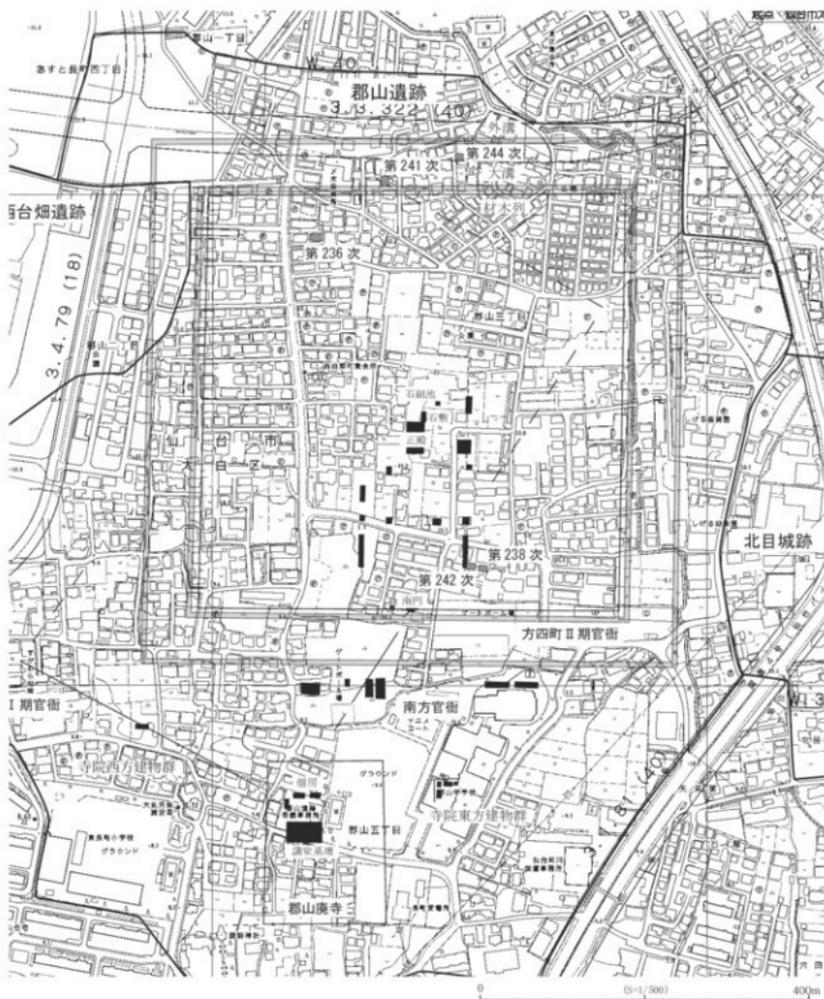


4 SK1 土坑断面（西から）



5 下層調査区全景（東から）

第6節 郡山遺跡



遺跡名・調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	調査原因	対応
郡山遺跡 第236次	I期官街北西部	37.5㎡	平成24年12月4日～12月21日	個人住宅建築	郡山遺跡12水調査
郡山遺跡 第238次	Ⅱ期官街南部	24.0㎡	平成25年2月19日～2月20日	個人住宅建築	郡山遺跡12水調査
郡山遺跡 第241次	Ⅱ期官街北部	39.0㎡	平成25年5月27日～6月5日	個人住宅建築	郡山遺跡12水調査
郡山遺跡 第242次	Ⅱ期官街南東部	26.4㎡	平成25年6月17日～6月18日	個人住宅建築	郡山遺跡12水調査
郡山遺跡 第244次	郡山遺跡北西部	15.0㎡	平成25年10月7日～10月9日	個人住宅建築	郡山遺跡12水調査

第21図 郡山遺跡調査区位置図

総 括

平成24年度の終盤(平成25年2月19日～3月31日)の調査件数は2遺跡7件、平成25年度4月1日～1月31日に実施した調査件数は15遺跡27件で、合計すると17遺跡34件となる。最も調査件数が多いのが太白区で13遺跡29件あり、調査件数の大部分を占める。他区は宮城野区2遺跡2件、若林区1遺跡2件、泉区1遺跡1件と少ない。各区分別の主な調査成果は以下のとおりである。

1. 太白区の調査

調査件数は13遺跡29件で、中でも地下鉄富沢駅周辺の土地区画整理事業地内の調査件数が多い。列記すると、大野田官街遺跡4件、大野田遺跡2件、大野田古墳群3件、六反田遺跡3件、元袋遺跡6件、王ノ壇遺跡2件、伊古田B遺跡1件で計7遺跡21件となり、太白区内の調査件数の7割以上を占める。本書に収録した8件も大野田官街遺跡、六反田遺跡、元袋遺跡、王ノ壇遺跡で、すべてこの地区の遺跡である。これ以外の遺跡としては、郡山遺跡3件、中田南遺跡1件、一塚古墳1件、四郎丸館跡1件、新組遺跡1件、柳生台畑遺跡1件の調査が実施されている。

(1) 大野田官街遺跡

4件の調査が実施され、本書にはこのうち第13～15次調査を収録した。

第13・14次調査では遺構・遺物共に検出されず、第15次調査でも土坑・ピットが検出されたのみで、官街に関係する遺構・遺物は確認できなかった。

(2) 六反田遺跡

3件の調査が実施され、本書にはこのうち第10次調査を収録した。基本層Ⅳ層上面で溝跡1条、土坑2基、基本層Ⅴ層上面で小溝状遺構群、土坑1基を検出した。基本層Ⅳ層上面で検出したSK1土坑からはロクロ土師器、須恵器、赤土器の坏類のみが20点以上、一括して埋設された状態で出土している。時期は10世紀前葉と推定される。

(3) 元袋遺跡

6件の調査が実施され、本書にはこのうち第7・8次調査を収録した。

第7調査では基本層Ⅳ層上面で小溝状遺構群、Ⅴ層上面で竪穴住居跡1軒を検出した。SI1竪穴住居跡からは非ロクロ土師器の鉢や甕類が出土しており、8世紀頃と推定される。

第8調査区は第7次調査区の南側に隣接している。基本層Ⅴ層上面で竪穴住居跡1軒、溝跡1条、小溝状遺構群を検出した。SI1竪穴住居跡からはロクロ土師器の坏や甕類が出土しており、9世紀第3四半期頃と推定される。

(4) 大野田遺跡

2件の調査が実施され、本書にはこのうち第4次調査を収録した。当該調査区は大野田官街遺跡と重複し、基本層Ⅴ層上面で官街の東辺を区画する大溝(SD3溝跡)を検出した。SD3溝跡の下層からはほぼ完形の非ロクロ土師器甕が出土しており、官街と同時期の8世紀頃と推定される。

(5) 王ノ壇遺跡

2件の調査が実施され、本書にはこのうち第7次調査を収録した。当該調査区は平成元年から実施された第1次調査で確認された中世の屋敷地に該当するが、基本層Ⅵ層上面で検出したSD1溝跡が屋敷に係る可能性はあるものの断定はできなかった。

2. その他の調査

宮城野区では鴻ノ巣遺跡1件、洞ノ口遺跡1件、若林区では南小泉遺跡1件、泉区では西上野原A遺跡1件の調査が実施されたが、遺構・遺物は僅少であった。

報告書抄録

ふりがな	せんだいへいやのいせきぐん 24						
書名	仙台平野の遺跡群 24						
副書名	平成 25 年度個人住宅他国庫補助対象事業に伴う発掘調査報告書						
巻次	24						
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第 428 集						
編者著名	平岡亮輔 小泉博明 黒田智章 佐藤高陽 千葉浩 早坂純一 千葉靖彦						
編集機関	仙台市教育委員会						
所在地	〒 980-0811 仙台市青葉区一番町 4 丁目 東二番丁スクエア 3 階 Tel : 022-214-8894						
発行年月日	平成 26 年 3 月 31 日						
所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
	要 約						
大野田官街遺跡 (13 次)	仙台市太白区大野田字袋前	4100 01566	38° 13' 2"	140° 52' 33"	2013.06.17	17.6㎡	記録保存 (個人住宅建築)
	官街	古代	なし		なし		
	遺構・遺物なし						
大野田官街遺跡 (14 次)	仙台市太白区大野田字袋前・六反田	4100 01566	38° 13' 2"	140° 52' 33"	2013.07.16	16.0㎡	記録保存 (個人住宅建築)
	官街	古代	なし		なし		
	遺構・遺物なし						
大野田官街遺跡 (15 次)	仙台市太白区富沢駅周辺 土地区画整理事業地内	4100 01566	38° 12' 57"	140° 52' 30"	2013.09.02 2013.09.05	24.0㎡	記録保存 (個人住宅建築)
	官街	古代	土坑 1・ピット 59		土師器		
	土坑 1 基、ピット 59 基を検出した。						
六反田遺跡 (10 次)	仙台市太白区大野田字元袋・六反田	4100 01189	38° 13' 5"	140° 52' 29"	2013.02.18 2013.02.22	28.3㎡	記録保存 (個人住宅建築)
	集落	縄文～近世	溝跡 7・土坑 4・ピット 7		土師器・須恵器・赤焼土器		
	S K 1 土坑から平安時代の土器が多量に出土した。						
元袋遺跡 (7 次)	仙台市太白区大野田字元袋	4100 01179	38° 13' 7"	140° 52' 32"	2013.03.04 2013.03.22	28.8㎡	記録保存 (個人住宅建築)
	集落・水田	弥生～中世	竪穴住居跡 1・溝跡 6		土師器・須恵器		
	奈良時代とみられる竪穴住居跡と畑耕作に関わる小溝状遺構を検出した。						
元袋遺跡 (8 次)	仙台市太白区大野田字元袋	4100 01224	38° 13' 6"	140° 52' 32"	2013.03.07 2013.03.26	13.6㎡	記録保存 (個人住宅建築)
	集落・水田	弥生～中世	竪穴住居跡 1・溝跡 10		土師器・須恵器		
	平安時代とみられる竪穴住居跡と畑耕作に関わる小溝状遺構などを検出した。						
大野田遺跡 (4 次)	仙台市太白区大野田字元袋	4100 01094	38° 12' 58"	140° 52' 38"	2013.07.17 2013.07.30	26.0㎡	記録保存 (個人住宅建築)
	集落・祭祀	縄文～古代	溝跡 3・ピット 25		土師器・石器		
	大野田官街遺跡の東辺にあたる南北方向の溝跡を検出した。						
王ノ厩遺跡 (7 次)	仙台市太白区大野田二丁目	4100 01428	38° 12' 51"	140° 52' 41"	2013.08.02 2013.08.09	39.3㎡	記録保存 (個人住宅建築)
	集落・屋敷	縄文～中世	溝跡 2・土坑 1・ピット 20		土師器・石器		
	時期不明の溝跡や土坑などを検出した。						

仙台市文化財調査報告書第428集

仙台平野の遺跡群24

平成25年度個人住宅他
国庫補助対象事業に伴う発掘調査報告書

2014年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区一番町4丁目1-25

東二番丁スクエア

文化財課 TEL 022 (214) 8894

印刷 株式会社 仙台紙工印刷

仙台市青葉区青葉三丁目1-14
TEL 022 (231) 22950
